

面接調査における回答の安定性について

鈴木 達 三

(1968 年 9 月受付)

A Study on the Reliability of Social Surveys

Tatsuzo Suzuki

In this paper, we study on the problems of measurement in the response reliability, using the data from two-wave panels, which had been carried out in several time intervals.

We put the survey situation in such a case that there may be no difference in the marginals between the successive responses.

In the situations in surveys, people are asked a number of attitude questions. The same question is asked more than once. In one case, the item is repeated one month later and in another case, about six months later. Viewing the data obtained from these surveys, there are few differences in the marginals between the successive responses, but in the contingency table between the first and second response, there is some variability among individuals (see Table 8, 9, 10, and 11).

In these situations, we provide a following measure of variability.

Let $C(r)$ be the measure of consistency of r -item, and

$$C(r) = \frac{\sum p_{ii}^{(r)} - \sum p_i^{(r)2}}{1 - \sum p_i^{(r)2}}$$

where $p_{ii}^{(r)}$ is the proportion giving i -th response in the r -item both times in the population, and $p_i^{(r)}$ is the proportion giving i -th response in the r -item in the population.

Under a certain assumption, $C(r)$ would be interpreted as a measure of the stability of the opinion related to r -item. By using $C(r)$, we can judge the degree of consistency of an r -item.

The Institute of Statistical Mathematics.

目 次

§ 1 はじめに	3) 調査結果における一致率
§ 2 研究調査の概要	§ 5 回答のとり方の問題
1) 面接調査	1) 関心の問題の場合
2) 前提となる調査条件	2) 「政治関心」の場合
3) 調査の計画	§ 6 一致率 $C(r)$ についての一つの解釈
4) 調査の実施	1) 一致率 $C(r)$ とモデル
§ 3 調査結果の概要	2) 質問項目の記憶と一致率
1) 準備調査の結果	要 約
2) 全国調査の結果	付録 I 質問項目の一覧表 (単純一致率, 階層別一致率を含む)
§ 4 回答の一致率について	II 質問文と前後単純集計表
1) 一致率 $C(r)$	
2) $C(r)$ の推定	

§ 1 はじめに

通常実施されている社会調査 (世論調査, 意識調査, 態度測定調査等) では, 質問紙 (票) を用い, 被調査者に対して一定の形式で質問し, それに対する回答を収集して分析するという手法が広く利用されている。

これらの調査が標本調査の場合, 調査結果には標本抽出による誤差 (サンプリング誤差) が

考えられることはもちろんであるが、サンプリング誤差以外にも、調査に付随する各種の誤差があると考えられている。これらの誤差には、いわゆる測定誤差として考えられる部分と、それ以外に原因のある測定変動とを考えなければならない部分（測定する対象個々の変動によって生じると考えられるもの）とが考えられるが、結果の数量的な解析、あるいは誤差評価という面からみると、測定変動の部分は、これまでほとんど取り上げられていないところである。

ところで、このように誤差がある場合、調査結果や誤差評価をどのように考えていくのがよいかは、実際の調査状況あるいは「調査」という現象のもつ機構がどのようになっているのかによって異なってくる。

そこで、われわれは、まず、社会調査が実際の現象として、どのような諸様相を示しているかを実証的に研究し、この統計的な性質をつかみ、誤差あるいは変動を数量的に取り扱いうるモデルを構成して分析を進めることを考えた。

実際に調査を実施する場合、調査目的に応じて最適な調査計画が立てられることが理想である。しかし、現実には、どのようにすればより一層信頼の出来る資料を収集できるか、より妥当な調査を実施できるか、ということすら具体的には分っていない場合が多い。

われわれの研究は、究極的にはこのような点を明らかにすると共に、どのようなモデルで資料の特性をとらえるのが最もよいか等のことを解明することを目的としているが、これらは非常に難しい問題で一挙に片づくものではない。こゝでは通常の調査で利用される手法を用いて得られた資料*等を素材にして調査における回答変動について 2, 3 のべることにする。

ところで、調査によって得られる回答比率をどう考えるかは、非常に難しい問題である。被調査者各人がある質問に対してははっきりした意見をもっていて、それが調査の結果得られたと考えられるような場合には、調査結果の比率は、本来各人のもっている意見の比率に調査誤差が加わったものとして考えられるが、そうではなく被調査者各人が日常ははっきりした意見をもっていなくて、たまたま調査で質問されたので意見をのべるという場合もあるし、質問されてから適当な回答をするという場合も考えられる。

その上、これまでにいろいろ実施してきた調査の結果をみると、調査結果を集団として（全体の比率で）みたときは、かなり安定しているが、同一質問を時期をおいて前後 2 回同一人に調査した結果をみると、前後調査の周辺分布はやはり安定しているが、個人の回答はかなり変動していることがわかる。

個人の回答が前後調査で変動する要因として、いくつかのことが考えられる。

たとえば

- ① 前後の調査時期のズレによって被調査者の意見が変る場合
- ② 前後のどちらかに測定誤差がある場合
測定誤差としては 調査員の判断の誤り
調査員の記入の誤り
等が考えられる
- ③ 前後別人を調査した場合
- ④ 前後同一人を調査したし測定誤差もないが被調査者の意見が本来不定でたまたま回答が変った場合
- ⑤ 前後の調査状況（質問の仕方、調査場面の雰囲気）の差異により回答が影響された場合等である。

このような回答の変動を分析するため、いろいろの調査研究が試みられている。[1], [3], [4], [6], [9], [12] 等参照。

実際の調査分析に当って、調査票の回答の模様を問題にする限りは、②, ③ をのぞき ①, ④, ⑤はこのまゝでは区別して分析することはできないが、回答の変動はかなり存在しており特定

* 統計数理研究所では 1966 年以来「社会現象の統計的モデル化の研究」の一環として調査回答の信頼性を研究している。これはその研究調査の分析の一部である。

の質問についてみるときも、どれが主要な変動要因であるかは、必ずしも明確ではない。また、調査員の関係する誤差との区別もあまりはっきりしていない。

従って、われわれは、このような回答の変動がどのくらいになるかを同一質問を同一人に前後2回繰返して調査するいわゆるパネル調査の方式でしらべることにした。

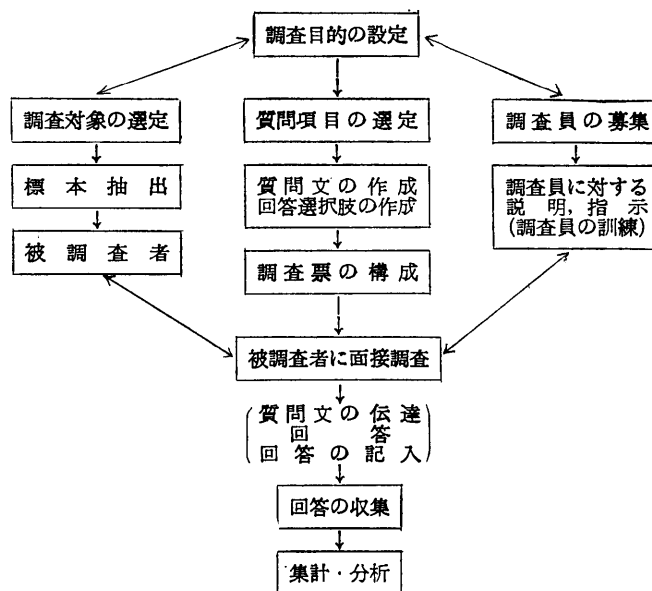
この際、とくに留意したのは前後それぞれの調査における調査条件をそろえることである。

§ 2 研究調査の概要

1) 面接調査

われわれは、通常利用されている一対一の面接調査における問題に限って研究を進める。実際の「面接調査」の流れを形式的に図示すると大略つぎのようになる。

第1表 面接調査の流れ図



すなわち、面接調査の手順は大きく分けると、被調査者（サンプル）の抽出、調査票の作成、調査員の訓練の3つになり、それらを総合して面接調査を実施することになる。

この場合、調査の全体的構成を考えると、時間的にも空間的にも、また、調査に関係する人員的にみても、ある程度の変動は避けられないが、調査結果を分析するには、可能な限り統一した条件で調査が実施されることが望ましい。

われわれの調査目的から考えると、測定誤差の問題と回答変動の問題とを区別して考察できるように、これらを分け、回答変動をなるべくそのまゝの形で得られるようにする必要がある。このため、通常の面接調査の方式を基礎にして、2, 3 調査条件をそろえることにした。

2) 前提となる調査条件

a) 回答票の利用

調査員の問題が面接調査における測定誤差や回答変動の主要な要因の1つとなっているものと考えられる。このためまず、回答者の回答を調査票に記入する際に生じる調査員の判断による誤差変動に対する対策として、回答選択肢を作成するに当たり、調査員が回答を記入する時判断を必要とする場合は回答票（回答者に回答選択肢を示すための回答選択肢の一覧表）を

用意*)し、

一定の方式で回答者にこの回答票を提示して回答を求める方式をとった。

b) 調査員に対するインストラクション

また、調査員に対する説明、指示も、大きくわけて、調査員に対して各質問項目ごとに質問の主旨をよく分からせ、調査員の補足説明が必要となる事項について1つ1つ細かい説明の基準や判断上の注意を与える方式と、質問の要領は質問文が正確に被調査者に伝えられることを主眼にし、回答者に対する補足説明が必要な場合でも、補足は質問文の範囲を出ないようにし、質問文以外の情報を被調査者に与えない方式とある。

理想的に言えば、この両者をかねそなえた上で調査条件が統一のとれた調査を実施できるように調査員を訓練することが望ましいのであるが現実の問題として、調査条件をそろえて結果を分析しようという時に前者の方式では、実際の調査場面がどのようなものであるか不明確である上、調査条件の影響をうける可能性が強いと考えられるので、われわれは調査員に対する説明に当って後者の方式を採用した。

すなわち、調査員の説明(手びき)には、以下のような「調査のやり方」を説明した。(関係のある部分のみ示すことにする)。

調 査 の や り 方 (調査員の手びきより引用)

まず始めに、この調査のやり方について、一般的に述べることにする。これからお願いするような、統計調査というものは、すべてが同じ条件のもとでおこなわれなければならない。したがって、以下の注意により、調査を出来るだけ同じ条件のもとでおこなうように心掛けていただきたい。

調査の手順や、調査票の作成については、研究所では長年研究を続けており、今回の調査も、これまでの研究結果にもとづいて企画運営されているのであるから、調査の手順や質問のしかたなどを変更してはいけ

ない。
しかし、調査地点やサンプル(調査対象者)によっては、いろいろ特別の事情もあることと思われるから、とくに気のついた点は、調査が終ってから報告していただければ、分析のとき参考にします。

面接調査法 この調査では、調査員が必ずサンプル(調査相手)本人に面接して(代りの人ではいけない)、調査票の通りのことばづかいで質問をし、サンプルの答を調査員自身が調査票に記入しなければならない。

調査票をサンプルにあずけて、記入させてはいけない。

質問のしかた 質問は調査票通りにしなければいけない。

調査票にないことをつけ加えたり、いいかえたり、一部分を強調したり、一部分をいわなかったりしてはいけない。質問を終りまでいってから(？のところまでいって)回答をとるようにすること。また、答を誘導するようなことや、なかなか回答してくれないようなとき答を無理に引き出すようなことをしてはいけ

ない。
サンプルが質問の内容を理解しないときは、質問をくりかえしてみても、それでも分らないようなら、無答(Y, D. K.)とすること。質問は義務教育だけでも分かるはずの言葉を使うように心がけている。中には二、三その範囲を越えることもあるが、統計調査であるから、この言葉で質問したとき、無答の人がどのくらいいたかは大切なデータとなるので、いいかえたりしないこと。

無 答 答のワクの中の右下の D. K. (don't know, 分からない) というのは、サンプルが質問に対して判断する力がないもの、あるいは、その質問の答を拒否したものをさす。(理由をいわずに“なんともいえない”とか 2, 3回質問をくりかえしてみても“さあ、わかりません”といったものを含む)。

その他 サンプルの答が印刷されている選択肢のどれに入れてよいか判断できないときとか、答が2つ以上の選択肢にまたがったようなとき、あるいは特別の条件をつけているようなときには、答のワクの中の左下の“その他[記入]”のところにサンプルの答の要点を記入する。

* 回答票使用の方が記入の際の判断誤差が少ないことは別に研究されている [9]。

調査票リスト この調査では、調査の性質上大部分の質問項目で調査票リスト（回答票）を使用している。すなわち問番のつぎに「リスト」と書いてある質問（たとえば問3以下）は、調査票リストをみせながら質問をし、そのリストの中からサンプルの最も近い意見（最も似ている状態など）を選んでもらう。このときサンプルがリスト以外の答をしたら、「この中から選ぶとしたら、どれですか？」などといって、リストの中から選んでもらうようにつとめること。それでも、リストの項目をあげないときには“その他”に要点を書くこと。

なお、リストは該当ページを開いてサンプルに渡し、サンプル自身に読ませればよいが、あまり読み書きになれていない人や老眼の人などには、いっしょに（相手をさそいこむように）読んであげるほうがよい。リストに書いてあることは、調査票の回答欄にも印刷してある。（ただし、調査票の方の“その他”“無答”はリストに印刷していない）。

c) 調査法上の誤り、前後同一サンプルを確認する手段

いま1つの問題は、指示通りの調査が実施されたかどうかを確認することである。調査方式として面接調査を採用したので、それ以外の留め置き自計式（調査票を被調査者に手渡し、あるいは郵送して記入させ後日記入された調査票を回収する方式）、あるいは電話による調査などは調査誤差と考えられ、また、前後調査で確実に指定された標本（被調査者）を調査しているかどうかをはっきり確認することも調査結果にとって重大なことである。

これらの誤差を識別するため 1) 面接調査を実施した後で郵便調査により調査状況を調査する 2) 後調査で前調査の記憶をさく、等のことをした。また、前後調査で同一人を調査したかどうかを確認する手段として、前後調査それぞれで被調査者の筆跡をとり判定することにした。この他、職業、出身小学校名等の資料を補助資料として用いることにした。

このように、前節でのべた要因のうち ②、③ について変動要因をへらす形で調査企画をたてたのである。

3) 調査の計画

a) 準備調査

われわれは全国調査を実施する前につぎのようないくつかの点を検討するため準備調査を計画した。

- ① 質問文、および回答選択肢の選定について
- ② 調査票の構成に関して（質問文の配列、主質問と付属質問）
- ③ 前後調査の時期および間隔について
- ④ 回答変動の大きさ（程度）に関して

まず、質問文については、質問内容が客観的情勢の影響を受け易い場合（たとえば政治上の争点に関する質問など）には回答の変動が生じやすいので、このような質問項目とそうでない項目とを分けて調査することにした。

また、とり上げる質問項目は、これまでに実施した各種の世論調査で使用された質問項目をえらび、質問のねらい、質問内容、回答のとり方、回答の分布状況、使用頻度、等により類別し、各類別からの標本質問項目をえらび出した。これらの質問項目について、その信頼性、妥当性をみる予備調査を実施するとともに回答のとり方、回答選択肢の良否を検討した。

つぎに、調査票の構成に関して、質問文の配列および質問項目の内容（質問文の文脈）が回答者にはっきり伝わるかどうかを検討するため、数種類の調査票を作成して準備調査を実施することにした。

今回の調査では回答の変動（安定性）を問題にしているのでパネル調査の実施間隔は、あまり長くとも短かくとも、分析上よくないと考えられたので、回答変動の程度（回答変動の比率）がどのくらいになるかによって実施間隔も変えることにした。調査実施上の点から、準備調査では、まず自記式で3日間隔の実験調査を実施し回答変動の大きさをしらべ、ついで1ヶ月間隔の準備調査を実施し、上にのべた質問項目、回答のとり方、調査票の構成法、被調査者のデ

モグラフィックな要因等との関連を検討した。

b) 全国調査とその吟味

以上のような調査実施上の諸点について 試行錯誤の形で 準備調査を進め、全国調査にとり上げる調査票の構成形式、質問項目、回答のとり方、回答選択肢等を選定し、通常的面接調査法による場合の質問項目の信頼度（回答の安定性）等を検討する全国パネル調査を実施した。また、質問文の差異による回答状況の変動、およびパネル調査の実施状況の差異による回答状況の変動を検討するための吟味調査^{*})を実施することにした。

4) 調査の実施

- a) 準備調査：質問項目の選定や調査票の構成形式を選定するために、実験調査および準備調査をそれぞれ 2 回づつ実施した。準備調査では、それぞれ 2 種類の調査票を作成し、1 ヶ月間隔のパネル調査をおこない質問内容、回答のとり方、調査形式等を比較検討した。
- b) 全国調査：準備調査の結果により、白、赤 2 種類の調査票を作成し、全国 190 地点より抽出した 3600 人のサンプルに交互に使用して第 I 次調査（全国前調査 (I) と略称することがある）をおこなった。また、約 6 ヶ月おいて第 I 次調査の回答がえられたサンプルだけにパネル調査（第 II 次調査、全国後調査 (II) と略称することがある）を実施した。パネル調査終了後、調査状況を吟味するため郵便調査をおこなっている。

＜サンプル＞ 全国の市町村を産業、人口規模、地方性などを考慮して 190 層に層別し（昭和 40 年国勢調査資料を利用）、層別 3 段サンプリングにより 190 地点、3600 人（1 地点当り平均 19 人）を抽出した。

サンプルの割当は、表の通りである。

第 2 表 全国調査サンプルの内訳

	当初割当サンプル数	パネル調査(全国後調査) 実施サンプル数
白調査票使用サンプル	1820	1219
赤調査票使用サンプル	1780	1230

＜調査員＞ 調査は研究所の職員 15 人と、学生調査員延 160 人余りの協力をえておこなわれた。

＜調査票と質問項目＞ 研究所で実施している「国民性の調査」^{**}) および「マス・コミュニケーションの効果 (EF) の調査」^{***}) から主に質問項目をとり上げた。中には若干修正して使用したものもある。

なお、白、赤 2 種類の調査票は

- ① 質問文の相異による差を検討するもの…………… 2 項目
- ② 質問順の影響による差を検討するもの…………… 7 項目
- ③ 回答選択肢の相異による差を検討するもの…………… 9 項目

のほかは同じである。くわしくは質問項目の一覧表および付録の質問文（白調査票のみをかかげた）を参照のこと。

* 吟味調査の結果は別に発表される予定である。

** [1], [21] 参照

*** [22], [23] 参照

§ 3 調査結果の概要

1) 準備調査

準備調査では、まず、回答変動がどのくらいあるかという問題からとり上げた。調査対象は、研究所の養成所におけるサンプリング調査法の受講生 106 人である。調査は「国民性調査」の調査票をそのまま利用し、自記式回答法でおこない 3 日後に同一の調査をくり返して実施した。

その結果前後調査における回答一致率の一部（全国調査で使用した質問項目と同じところだけ）を示すと、表のようになり、他の質問項目でも同様の結果で全体としてみると単純一致

第 3 表 実験調査の回答一致率の例

問	項 目	全く同じ答(%)	正反対の答(%)	全国パネル調査の問番号
6	先生が悪いことをした	88	5	8 a
8	男女を希望	97	2	1 *
16	心の豊かさはへらないか	73	6	2
20	めんどろをみる課長	96	2	6 a
23 a	悪人がキツクるとき	95	1	9 a *

*) 質問文が少しちがっている

率は 97%~73% である。

これは、3 日しか間をおいてないので当然記憶の問題も入るが、回答者の回答変動があることを示している。この場合、前後調査における回答の周辺分布はほぼ一致していることはもちろんである。

つぎに、回答変動の原因として考えられるもののうち、つぎのような問題をとり上げて検討した。これは、

- ① 回答者の意見（考え）が変わって回答が変わる場合の分析
- ② 回答者の理解度と回答変動との関連（質問内容に対する理解を深めれば回答は安定するかどうか）
- ③ 回答者の態度構造と回答変動との関連

等である。

①は「めんどろをみる課長」（付録 II 第 6 表参照）の質問項目における回答の変動について、それぞれの課長に対するイメージを追加質問で調査し、各人の回答状況とつけ合せて解析した。その結果、イメージのはっきりしているものは回答の変動が少いことがみられたので今後この面での分析を進めることにし、全国調査で更に追及することにした*）。

②についてみると、仮りに調査条件を前後調査で一定にすることができたとすれば、同じ質問をしたとき、回答が変わるのは被調査者が前後の調査場面で何らかの異なった理解をするためであろうから、質問内容をはっきり限定することができ、いつでも同じように理解されるような調査形式をとることができれば、回答の変動は少くなるのではないかと考えられる。また、これまでは企画者の設定した質問のねらいが、質問文をやさしい言葉で作成することによって、直接被調査者に誤りなく伝わるものと考えていたが、実際の調査場面ではこうならぬ場合もあり思わぬ誤解（われわれの設定した質問内容や、質問のねらいと異なった受け取られ方）をされていることも考えられる。そこで、はっきりと質問内容が分るように、いわば被調査者を教育して回答をとることを試みた。

この場合、二つの影響が考えられ、一つは本来のねらいである、主質問の主旨や内容をよく分らせるという効果と、いま一つは付加質問をつけ加えて教育したために主質問の回答が変化するという影響である。

* この点は、林知己夫部長により別に分析検討されている。

これらの影響をみるためにいくつかの質問を付加した場合とそうでない場合とを比較する方法をとり、「政治関心」(付録 II 第 29 表参照)を主題にして調査票を A, B 2 種類作成して予備調査をおこなった。すなわち、調査票 A では(質問文は簡略に示した)。

- 問 1 政治問題について腹がたったり、なさげなく思うことがあるか?
 問 2 新聞の政治記事の見出しだけでなく本文をよく読むことがあるか?
 問 3 テレビ、ラジオのニュース解説や政治番組をみたりきくことがあるか?
 問 4 週刊誌を政治問題を理解するのによみたいと思うか?
 問 5 新聞の投書欄にでていることは、国民一般の意見を代表していると思うか?
 問 6 デモに参加する人たちは本気で参加しているか?
 問 7 総選挙のとき投票するか?
 問 8 日本では重要な政治問題について国民投票をした方がよいかどうか?
 問 9 首相公選をどう思うか?

以上 9 問の付加質問の後で主質問を質問し、B 型では前置きなしで政治関心の質問をした。結果は第 4 表のようになり付加質問をしても一致率にほとんど変化がみられなかったが付加

第 4 表 教育の効果 (間隔 1 ヶ月, 面接自記式)
(A 型)

前	後					計
		1	2	3	4	
1	非常に関心がある	13	6	1	0	20
2	やや関心がある	5	77	20	0	102
3	あまり関心がない	0	12	36	1	49
4	全く関心がない	0	0	0	1	1
計		18	95	57	2	172

単純一致率^{*})=73.8% $C(r)=0.54$

(B 型)

前	後					計
		1	2	3	4	
1		12	3	0	0	15
2		6	73	12	0	91
3		1	14	15	0	30
4		0	2	1	1	4
計		19	92	28	1	140

単純一致率^{*})=72.1%, $C(r)=0.46$

質問の作り方にも問題があるので更に実験を重ねることにした。

③は態度構造をみる質問群を別に選定する必要があるので、別に調査計画をたてることにした^{**)。}

以上のほか、準備調査では質問内容と回答のとり方の関係、回答選択肢の問題、質問形式上の問題等を取りあげて検討した。

その結果

1. 客観的情勢の影響を受けないような質問項目では回答の周辺分布状況の時期的変動はない(集団としてみたとき回答分布は安定している)が個々の回答変動はかなり存在する(1 ヶ月間隔のパネル調査、面接自記式)。
2. パネル調査における回答の単純一致率(これは前後同じ回答をした人の全体に対する割合)は、質問内容、回答のとり方等と関連するが、とくに回答選択肢の数および回答分布の集中率(選択された回答比率の一番高いもの)との関連が強くみられる。
3. あいまいな回答(中間的回答、無答など)をする人は回答が見かけ上変動しやすい。
4. 質問内容と回答のとり方がよく符合している場合は、回答の変動が少ない。

等のことがみられた。

2) 全国調査の結果

準備調査の結果みられた傾向は、「国民性調査」において実施されたパネル調査^{***)}(5 年間隔, 10 年間隔)の場合にも、ある程度みられた傾向と類似している。

とくに前後調査における回答の周辺分布がほとんど変化しないことと、回答の単純一致率が

* 単純一致率や一致率 $C(r)$ については次節以下を参照のこと

** 分析結果は統計学研リポートおよび彙報に発表される予定である

*** [25] 参照

回答分布の集中度に関連していることは、回答変動の分析に一つの示唆を与えるものである。

このようなわけで、全国調査における質問項目の選定は、質問内容、回答のとり方、回答選択肢の数、回答分布状況（集中度）等を考慮して、各質問項目の類別から選定することにしたのである。

また、面接調査法を用いるので、すでにのべたように

① 調査法上の誤りを見出す方法

② 同一サンプルをパネル調査したかどうか確認する手段等を計画に組み入れた

a) 調査実施状況

調査実施状況は表のようになり、調査不能サンプルの構成および不能理由等は通常の調査の場合とほとんど変りない。しかし調査状況の適否を厳重に検査し調査法上問題のあるものを不

第 5 表 サンプルの構成と調査不能 <全国調査>

		性		年 齢										計
		男	女	20 } 24	25 } 29	30 } 34	35 } 39	40 } 44	45 } 49	50 } 54	55 } 59	60 } 64	** 脱落	
割当 サンプル数		1682 (47)	1918 (53)	455 (12)	462 (13)	446 (12)	434 (12)	349 (10)	330 (9)	272 (8)	288 (8)	560 (16)	4	3600 (100)
集 計 サンプル数	I	1063 (43)	1386 (57)	266 (11)	301 (12)	308 (13)	309 (13)	259 (11)	242 (10)	207 (8)	212 (8)	345 (14)		2449 (100)
	II	* 750 (41)	* 1072 (59)	173 (9)	* 215 (12)	* 228 (13)	241 (13)	188 (10)	177 (10)	163 (9)	172 (9)	265 (15)		1822 (100)
*** 不能率	I	36.7	27.7	41.5	34.8	30.9	28.8	25.8	26.7	23.9	26.4	38.4		32.0
	II	29.4	22.7	35.0	28.6	26.0	22.0	27.4	26.9	21.3	18.9	23.2		25.6

* (I)でカテゴリーの異なるもの各1あり

** 選挙人名簿に記入なく、調査不能のため不明のもの

*** (I)の不能率は割当サンプルに対する調査の不能サンプルの率、(II)は(I)の集計サンプルに対する(II)調査の不能サンプルの率

		市 郡						計
		6 大市	人口20万 以上の市	人口10～ 20万の市	人口 5～ 10万の市	人口 5万 未満の市	町 村	
割当サンプル数		673 (18)	600 (17)	400 (11)	421 (12)	360 (10)	1146 (32)	3600 (100)
全 国 サンプル数	I	413 (17)	413 (17)	269 (11)	306 (12)	251 (10)	797 (33)	2449 (100)
	II	277 (15)	301 (17)	188 (10)	232 (13)	202 (11)	622 (34)	1822 (100)
不 能 *** 率	I	38.6	31.2	32.7	27.3	30.3	30.5	32.0
	II	32.9	27.1	31.9	24.2	19.5	22.0	25.6

<不 能 理 由>

不能理由	死 亡	移 転	尋ね当らず 該当者なし	長期不在	病 気	一時不在	拒 否	そ の 他 ^{*)}	計
I	9 (1)	188 (16)	97 (8)	240 (21)	150 (13)	200 (18)	135 (12)	132 (11)	1151 (100)
II	5 (1)	98 (16)	25 (4)	134 (21)	55 (9)	107 (17)	142 (22)	61 (10)	627 (100)

*) 回収後、調査状況が不備のため不能扱いにしたもの (I) 120, (II) 57 を含む。

能扱いにしている。それが不能サンプルのほぼ 10% に達していることは、臨時の面接調査員を使用する時、今後十分留意すべきことと考えられる。

とくに、自記式および指定されたサンプルでない別人を調査した場合がかなりみられたので、調査員の訓練、指導を十分にやる必要があると思われる。

b) 前後調査のサンプルの確認

パネル調査が出来たサンプルについて、前・後の調査が確実に同一人に対して行われたかどうかをいくつかの点から検討した。通常は調査後に実施状況を問い合わせる郵便調査を実施して、調査状況の適否を検査しているが、今回は郵便調査の外に被調査者の前・後調査における筆跡によって同一人かどうかの判断をした。

被調査者の筆跡は、「本日は晴天なり」とタテ書きとヨコ書きで調査票の裏表紙のワク内に記入してもらうという方法でとった。この調査の拒否は非常に少く、「字が書けない」、「書いたことがない」というものは 5% 程度であった。また調査時に筆跡をとるのを忘れたり、忙がしくて書いてもらえなかったため、前・後調査の片方が欠け、判断できなかったものが 6% ほどあった。

実際の筆跡判定は研究員 5 名があたり、ほとんど全員の判断が合致し (94%, このうち、前後同一人と判定されたものは 90% で、別人と判断されたものが 10% ある)、意見の分かれたものは 6% であった。

c) 前後調査サンプルの調査状況による選別 (<良>, <不良> の選別)

筆跡、およびそれ以外の調査状況の適否判定の材料として、出身小学校名、職業、学歴の前後の異同、再調査時の記憶、郵便調査における調査状況等を参考にし、集計サンプルをつぎのような 3 つの群にわけた。

- 1 < 良 > : 判定の資料が前後共一致していて、調査状況も手落ちのないもので前後同一人を確実に調査していると判断されたもの (集計サンプルの 74% にあたる)
- 2 < 不確実 > : 筆跡は前後同一だが、その他の点からみて問題点のあるもの、および、筆跡判定で意見がわかれたり判定不能であったもの (あわせて 16%)
- 3 < 不良 > : 筆跡が前後不一致でその他の点からも前後別人の可能性が高いと判断できるもの、および筆跡不確実のうち、その他の項目で別人であることが確実なもの (10%)

以上をまとめて表にして示すとつぎのようになる。

第 6 表 調査状況による類別

計画サンプル	第Ⅰ回調査	第Ⅱ回調査	筆跡判定	適否	別判定				
3600 [100]	—不能 1151 [32]	—不能 627 —調査出来 1822 [51] (100) —調査出来 ＜全体＞* [51] (100)	—前後不一致… 158 (別人) (9)	出身小学校名、職業、学歴 再調査時の記憶、郵便調査					
	調査出来 2449 [68]		—前後片方欠… 103 (5)			＜不良＞* 183 (10)			
			—意見分かれ… 109 (6)				{ ＜不確実＞* 何らかの ケチがつ いたもの }		
			—前後一致… 1452 (同一人) (80)					300 (16)	
									＜良＞* 1339 [37] (74)

*1) 付録集計表では < > 別の前後単純集計、一致率等を示す

ここで郵便調査と筆跡判定との関係をみると第7表のようになり、両方の判断が一致する場合が94%、くいちがいが6%ほどになり、双方を並用するとほとんど調査法上の不備が発見されサンプルの確認もできると考えられる。

第7表 郵便調査と筆跡判定との関係

		筆跡の判定		計	
		同一人	別人		
郵便調査の断	良	88.6	2.5	91.1	(表中の数字は395を100にした%を示す)
	不良	3.8	5.1	8.9	
計		92.4	7.6	100.0 (395)	

d) 前後調査の結果（周辺分布）（付録質問文と単純集計参照）

集計サンプル全体の結果をみると、パネル集計サンプルの第I回（前）調査の結果は、第I回調査のとき調査できたサンプル全体の結果とよく一致しているので、最終集計結果は片よっていないと考えられる。また、他調査における同一質問の結果と比較検討してみると、周辺分布はほぼ同様であり、今回の調査状況（調査方法、その他）が特に結果に影響を及ぼしているとは考えられない。パネル集計サンプルは計画サンプルの約半数になったが、そのために結果がとくに差異を示しているということもないと考えられる。

そして、前・後共全く同じ質問においては、客観情勢に変化がなければ前後の単純集計（周辺

第8表 問3「スジを通すか丸くおさめるか」＜前後調査のクロス表＞の例

前 \ 後	1	2	3	4	0	計	%
1 スジを通す	307	159	27	5	0	498	37
2 まるくおさめる	153	540	28	7	0	728	55
3 その他	39	36	18	3	0	96	7
4 D. K.	6	8	1	1	0	16	1
0 脱落	0	1	0	0	0	1	0
計	505	744	74	16	0	1339	100
%	38	56	5	1	0	100	

第9表 問19「天皇制について」＜前後調査のクロス表＞の例

前 \ 後	1	2	3	4	5	6	0	計	%
1 権威のあるものにする	○ 70	◎ 65	● 8	× 2	1	1	0	147	11
2 象徴としておく	◎ 75	○ 851	◎ 34	● 15	6	21	1	1003	75
3 形式的なものにする	● 4	◎ 38	○ 18	◎ 1	0	2	0	63	5
4 廃止する	× 1	● 22	◎ 8	○ 26	0	1	0	57	4
5 その他	1	4	0	0	△ 0	0	0	5	1
6 D. K.	5	41	2	0	0	△ 14	0	62	4
0 脱落	0	2	0	0	0	0	△ 0	2	0
計	156	1023	76	44	7	38	1	1339	100
%	12	76	5	3	1	3	0	100	

第 10 表 問 13「教育問題に関心があるか」

<前後調査のクロス表> の例

前 \ 後	1	2	3	4	5	計	%
1. あまり関心がない	○ 28 ● 35	● 40 ○ 136	× 19 ◎ 86	2 1	1 3	90 261	14 40
2. 関心がある	× 17	◎ 87	○ 169	0	2	275	42
3. 非常に関心がある	1	2	1	△ 0	0	4	1
4. その他	7	5	4	1	△ 6	23	3
5. D. K.							
計	88	270	279	4	12	653	100
%	13	41	43	1	2	100	

第 11 表 問 17「内閣支持」<前後調査のクロス表>の例

前 \ 後	1	2	3	4	計	%
1. 支持する	○ 384	× 65	34	63	546	41
2. 支持しない	× 77	○ 287	25	45	434	32
3. その他	35	26	△ 19	27	107	8
4. D. K.	63	48	36	△ 105	252	19
計	559	426	114	240	1339	100
%	42	32	8	18	100	

分布) に差がみられない。しかし、傾向として第 II 次調査 (後調査) の結果では D. K. (無答, 分らない) が少なくなっている。これは一種の教育の効果ともみられるので今後の分析の際、注意が必要であろう (ただし、ほとんどの項目では前後周辺分布の χ^2 検定で有意差はない)。ここで、前後調査の結果の一例を、前後クロス表の形で示してみよう。第 8 表および第 10 表は社会問題の例であり、第 11 表などは政治問題の例である。

e) 前・後調査で周辺分布の変化した項目

1° 回答のとり方 (選択肢数, 回答カテゴリの説明等) を変更した場合

赤調査票の問 2「心の豊かさ」や問 5「P. T. A. の寄付集め」のように、後調査で回答選択肢を 1 つふやした項目では当然のことながら回答が変化する (第 12 表参照)。

また、問 14「小選挙区制に賛成か」や問 16「義務教育を長くすることに賛成か」のように回答選択肢はそのまゝで、説明をつけ加えただけの場合、前後の回答分布が変化する (第 13 表参照)。この両項目はともに回答票を用いない質問項目であるから、調査員が賛成、反対に対する回答を判断する場合の差異による変動も考えられるが、このように形式上ほとんど問題にならないと思われるようなことで、回答変動 (周辺分布の) を引起すことは注目すべきことである。

2° 調査員に対する説明の影響

問 11「立派な人物」は、14 人の人物名を回答票に並記して各人ごとに「立派かどうか」を判断させたのであるが、前調査の結果、途中から「後は皆立派だ」という回答が多く、「全部立派」という選択肢に記入される場合が多くみられた。そこで後調査では、調査員に対する説明のとき 1 人 1 人立派かどうかを判断してもらうように強調した。この結果、周辺分布にズレが見られ、単純一致率を算出するときカテゴリをまとめることになった。

3° 質問文を小変更した場合

問 4「校長の礼服」(赤調査の場合)、問 15「死刑廃止」では前後調査において質問内

容を変えずに質問文を小変更した。その結果は10%でいど周辺分布が変化している(第14表参照)。質問項目の妥当性や、質問内容が理解しやすいかどうか、回答比率の解釈等の点からみて、このような場合の回答の変動をもっと分析する必要があると思われる。

第12表 問2「心の豊かさ」(赤調査票) <回答選択肢をふやした例>

前	後	1	2	3	4	5 いちがい に言えない	計	%
1. 人間らしさはへらない	○	389	×	50	5	18	43	505 74
2. 人間らしさへる	×	64	○	30	0	4	8	106 15
3. そ の 他		9	2	0	0	5	16	2
4. D. K.		35	2	0	11	11	58	9
計		497	84	5	33	67	686	100
%		72	12	1	5	10	100	

第13表 問14「小選挙区制に賛成か」<回答選択肢の説明を加えた例>

前	後	1	2	3	4	5	計	%
		賛成	反対	その他	D. K.	知らない		
1. 賛 成		131	61	5	9	107	312	23
2. 反 対		56	176	13	11	90	346	26
3. そ の 他		22	23	9	10	79	143	11
4. D. K.		55	58	14	38	373	538	40
計		264	318	41	67	649	1339	100
%		20	24	3	5	48	100	

注) 前調査のとき「D. K.」が多かったので、後調査では、本来の D. K. と「小選挙区制とは何のことか分らない、知らない」という回答を区別させた。

第14表 問15「死刑廃止」 <前後質問文小変更の例*)>

前	後	1	2	3	4	計	%
1 賛 成		133	181	4	14	332	25
2 反 対		125	636	20	28	809	60
3 そ の 他		12	32	6	9	59	5
4 D. K.		17	93	7	21	139	10
計		287	942	37	73	1339	100
%		21	70	3	6	100	

*) 質問文の変更は付録を参照のこと、調査結果からみて、「前調査」の質問文より、「後調査」の質問文の方が理解しやすいと考えられる

以上のほか、問21「日本の実力を世界に示す方法」のうち「万国博覧会を開く」という意見と問22「万国博成功するか」の質問項目では前後調査で回答比率が変化し、いずれも「万国博開催」、「万国博成功するだろう」という回答が多くなっている。調査時期のズレによって客観情勢が変ったため、被調査者の意見が変ってきて回答の変化を引きおこしたとも考えられる例である。

4° 以上、この項でとり上げた各質問項目は、前後回答の周辺分布が多少変化しており、それぞれ、前後の調査状況の変化(質問文の変更、回答選択肢の修正等)の模様と無関係で

はないことは、注目すべきことと思われる。逆に今回の調査データでみる限りでは、前後調査の調査条件に手を加えなければ、周辺分布の変化はみられない。

このことは調査を企画するとき、調査条件の設定を十分慎重に検討しなければ妥当な信頼性における調査は出来ないということを示すものであろうと考えられる。また、ここでのべた回答の変化に関するデータは、回答選択肢が実際の調査場面においてどのような意味をもっているか、ということ进行分析するには大変有用なものと考えられるが、この報告ではこれ以上ふれないことにする*)。

f) 前後調査における回答の単純一致率 (付録質問項目の一覧表にある)

前・後調査における各質問項目の回答の単純一致率 (前後の回答が全く同一の場合一致と考え、一致したものの全体に対する割合をいう) は、質問項目の一覧表にまとめてある。

まず、集計サンプル全体についての一致率をみると、79%~38% になり、二項選択の項目では 70% 前後、多項選択のものでは 50% 前後になる。また、前後において質問文その他に変更のあった項目は、当然のことながら一致率は低い方にかたまっているし、質問内容と回答選択肢がよく符合していないものは予想通り一致率は低い。

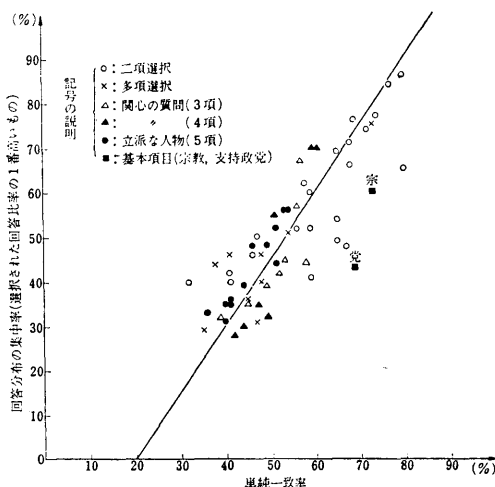
たとえば、問 8 c, d のように「先生の悪事」についての追求の質問などは主質問にくらべ一致率は 10%~15% 下がってくるし、問 5「P.T.A の寄付集め」のように回答選択肢として、質問内容にピッタリ当てはまる選択肢をわざと入れなかった項目なども一致率は低くなっている。このほか問 14「小選挙区制」のように質問内容が非常にあいまいであり、選択肢の説明を後調査でつけ加えたような項目も一致率は低い。

このように、宗教、支持政党などの基本項目に類似する項目を含めて、通常の質問項目で単純一致率が 70% 前後あるいは 60% 程度であることは注目すべきことである。しかし、回答選択肢が連続型の項目では、類似した回答を一括して単純一致率を求めると、70%~80% になる (回答を安定させるような選択肢の作り方が問題になろう**)。

g) 調査状況の<良><不良>別にみた単純一致率

つぎにこの一致率を調査の適否別、すなわち<良>、<不確実>、<不良>のグループ別に見てみると、各項目で<良>グループの一致率が一番高く、中間は<不確実>、一番低いのは<不良>グループになり、<良>にくらべ、その一致率は 10%~30% 低くなる。とくに<不良グループ>の一致率は、前調査、後調査の回答がそれぞれ独立におこなわれると仮定した場合の一致率とよく似てくる。これは調査状況の適否の類別が、調査状況をよく反映していることを示すと共に、このようなサンプルの類別により回答変動を細かく分析しうる可能性があることを示すものである。

<良>グループについての一致率と回答分布の集中度 (一番多く選択された回答カテゴリの回答比率で表わす) との関係を見ると第 1 図のようになり、すでにのべたように両者の関連がかなり強くみられる。しかし、選択肢数、質問の型による変動もある。



第 1 図 集中度と単純一致率の関係

* 質問項目、その他の吟味調査の結果と一緒に別に発表される予定である

** 詳しい分析は § 4, § 5 を参照のこと

＜良＞グループについて、これを性、年齢、学歴、調査員別等に分けて各階層別での単純一致率をみると、このまゝでは各質問項目に共通している傾向はみられない。しかし、後でのべるように、学歴の高い層ほど一致率が高くなる傾向がみられる。また、個々の回答者の一致数をみても学歴でやや傾向がみられるが特定グループで特に一致数が多いということもない*）（第15表参照）。

第15表 全質問に関する前後一致数 ＜白調査票＞ 延45項目

白	0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～45	計	平均	標準偏差
全体	—	2	10	19	27	26	13	3	0	100(892)	22.9	6.5
適否	良	1	8	16	28	28	15	4	0	100(653)	23.9	6.3
	不確	1	13	24	26	26	9	1	—	100(153)	21.6	6.2
	不良	9	17	40	23	11	1	—	—	100(86)	17.7	5.3
性	男	—	6	15	26	30	18	5	0	100(240)	24.8	6.2
	女	—	9	16	29	27	14	4	—	100(413)	23.4	6.3
年齢	20歳台	—	1	11	16	21	13	4	—	100(145)	23.8	6.5
	30歳台	—	1	7	14	24	32	17	5	100(169)	24.4	6.3
	40歳台	—	1	5	11	35	24	17	6	100(133)	24.9	6.0
	50歳台	—	1	8	20	29	24	16	2	100(119)	23.2	6.3
	60歳以上	—	1	8	20	33	23	11	4	100(87)	22.5	6.1
学歴	小中	—	1	13	22	35	22	6	1	100(135)	21.3	5.7
	高校	—	1	7	14	28	29	16	5	100(268)	24.2	6.2
	大学	—	2	6	14	25	29	19	5	100(209)	24.7	6.4
	大学院	—	—	3	13	18	39	19	5	100(38)	26.1	5.9
調査員	研究所職員	—	—	6	15	35	20	20	4	100(107)	24.4	5.8
	一般調査員	—	1	9	16	26	30	14	4	100(546)	23.8	6.4

また個人について各質問項目の回答が一致する傾向の人とそうでない人とがいるかどうかをみるため、国民性型の質問項目における一致数と政治問題における質問項目における一致数とを各人ごとにしらべ第16表のような相関表を作ってみた。結果は相関係数が0.22ほどで、ほとんど関係ないといえる。他の質問項目についてみても同様の結果であり、特に回答の一致する人もいないし、特に一致しない人もいないわけである。

第16表 国民性型と政治問題についての質問群の前後一致数のクロス表

＜白調査票＞

国民性型の質問群の一致数	政治問題の質問群の一致数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
3	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	4
4	0	1	2	3	1	5	2	0	1	0	0	15
5	0	1	5	3	11	8	4	3	0	0	0	35
6	0	4	8	7	19	12	15	1	5	2	7	73
7	0	1	5	16	17	27	21	5	1	1	9	94
8	0	4	5	11	27	32	21	12	3	0	1	115
9	1	1	5	16	22	19	18	12	4	2	2	100
10	0	2	2	5	15	12	17	16	16	2	8	87
11	0	0	2	6	8	23	11	8	2	1	6	61
12	0	1	2	3	10	13	11	5	4	2	5	51
13	0	0	0	2	1	4	2	3	3	0	1	15
14	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計		1	15	37	74	131	157	124	65	39	10	653
相関係数		0.223										

* くわしい表は [26] の p. 190 以下を参照のこと

§ 4 回答の一致率について

1) 一致率 $C(r)$ *)

前節でみたように、前後調査の回答状況は、多くの質問項目について、前後調査の周辺分布はあまり変わらず、個人でみると回答の変動はかなり存在し、前後クロス表の対角線に関してはほぼ対称の様子を示している。また、前後の回答が一致したものの比率（単純一致率）は回答分布の集中度や回答選択肢の数と関連しているようにみえる。従って、多くの項目を比較検討する場合、単純一致率では不便なので標準化して利用することにした。すなわち、単純一致率から、前後調査の結果が全く独立であるとした、いわば偶然で一致する分だけ減じ、この値が前後調査のとき各人が 2 回とも同じ回答をしたとき 1 になるように修正してやるとつぎのようになる。これを r -質問項目の一致率 $C(r)$ とよぶことにする。

第 17 表 質問項目の回答分布

後 前	1	2.....K	計
1	$p_{11}^{(r)}$	$p_{12}^{(r)} \dots p_{1k}^{(r)}$	$p_1^{(r)}$
2	$p_{21}^{(r)} \dots p_{22}^{(r)}$	$\dots p_{2k}^{(r)}$	$p_2^{(r)}$
\vdots			
K	$p_{k1}^{(r)}$	$\dots p_{kk}^{(r)}$	$p_k^{(r)}$
計	$p_1^{(r)}$	$p_2^{(r)} \dots p_k^{(r)}$	1

$$C(r) = \frac{\sum p_{ii}^{(r)} - \sum p_i^{(r)2}}{1 - \sum p_i^{(r)2}}$$

ここで $p_{ii}^{(r)}$ は母集団において 特定間隔をへだてた**)前後調査の r -質問項目で 前後同じ回答選択肢 i に反応する比率、 $p_i^{(r)}$ は母集団において r -質問項目の i 選択肢が選択される比率とする (第 17 表参照)。

2) $C(r)$ の推定

実際の調査結果から一致率を推定するには前後クロス表 (第 18 表) から

$$\hat{C}(r) = \frac{\sum \left(\frac{n_{ii}^{(r)}}{n} \right) - \sum \left(\frac{n_i^{(r)}}{n} \right)^2}{1 - \sum \left(\frac{n_i^{(r)}}{n} \right)^2}$$

を計算して推定値とする。ただし n はサンプル数、 $n_i^{(r)}$ は r -質問項目の i -選択肢に反応した人の数、 $n_{ii}^{(r)}$ は引続く 2 回の調査で i -選択肢をえらんだ人

の数、実際の計算では $n_i^{(r)}$ は、前・後の平均値 $n_i^{(r)*} = \frac{n_i^{(r)} + n_i^{(r)'}}{2}$ を用いた。

この場合、推定値 $\hat{C}(r)$ は $C(r)$ の偏りのある推定値で、期待値と平均自乗誤差は

$$E \hat{C}(r) = C(r) - \frac{1}{n} \frac{2}{V^3} \left\{ 2V(1 - \sum p_i p_{ii}) - 4U(1 - \sum p_i^3) - 2V^2 + 6UV - UV^2 \right\} + o\left(\frac{1}{n}\right)$$

$$\text{MSE } \hat{C}(r) = \frac{1}{n} \frac{1}{V^4} \{ 4UV(1 - \sum p_i p_{ii}) - 4U^2(1 - \sum p_i^3) + 4U^2V - U^2V^2 - 3UV^2 \} + o\left(\frac{1}{n}\right)$$

となる。

但し、 $U = 1 - \sum p_{ii}$, $V = 1 - \sum p_i^2$, $p_i^{(r)}$, $p_{ii}^{(r)}$ の (r) は省略した。

調査から得られたデータを入れて計算すると偏りの大きさは % 以下でほとんど無視できる。われわれの場合はサンプル数が大きい (≥ 800) ので平均自乗誤差で分散の値を考えると、推定値の相対誤差はおよそ 10% 程度であると考えられる。各質問項目について $C(r)$ の計算

* $C(r)$ についてのくわしい分析は本号の [27] をみよ

** 時間間隔については § 6 を参照のこと

値は質問項目の一覧表にある(付録 I 参照)。

3) 調査結果における一致率

a) 調査状況の良、不良別にみた一致率

付録の質問項目の一覧表をみればすぐ分ることであるが、どの質問項目でも<良>の一致率が<不良>グループの一致率にくらべて格段に高くなっている。調査項目のうち意見の項目での平均をみると<良>は 0.25 であるが<不良>グループは 0.06 で 0 に近い値を示している。前節でものべたことであるが、一致率 $C(r)$ の意味から考えても、<不良>グループは、ほとんど前後の調査結果に関連がなく独立だと考えられるわけで、われわれの調査状況の類別が成功していることと、実際の調査結果全体にはこのような誤差が入っていることを示している。

また、このように調査状況を類別して考えても、<全体>の一致率とくらべて<良>グループの一致率がそれ程改善されていないことは注目すべきことである(相対的にみて 10~20% 程度である)。

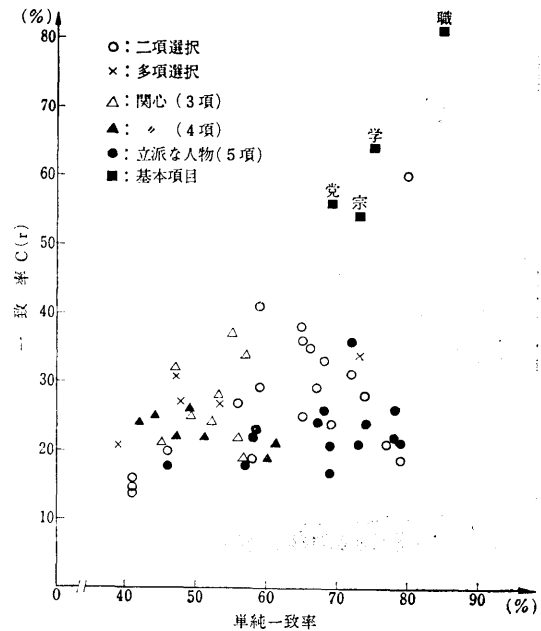
つぎに各質問項目別にみた一致率の様子の概要をみよう。

b) 質問項目別にみた一致率

(<良>グループについて)

(第 2 図参照)。

単純一致率で高い値を示した項目は基本項目のほか、問 1「男女の生まれかわり」、問 6「人情課長」、問 11「立派な人物」*)のうち「二宮尊徳」、「伊藤博文」、「野口英世」などで、ともに 80% 近いの単純一致率であった。しかし、一致率 $C(r)$ を計算してみると、基本項目ではいずれも 0.5 以上の値になり、とくに事実と密接に関連する項目では 0.8 以上になるが、意見の項目では、上にのべた「男女の生まれかわり」(第 19 表参照)だけが 0.60 と大きな値を示す他は、問 17「内閣支持」が 0.41 となり、以下問 4「校長の礼装」(白調査票)、問 12「政治関心」、問 3「スジカ丸くか」、問 11



第 2 図 一致率 $C(r)$ と単純一致率の関係
(<良>グループについて)

第 19 表 問 1「男女の生まれかわり」 <一致率の高い例>

前 \ 後						計
	1	2	3	4	5	
1 男に生まれたい	56.9	6.1	0.9	0.7	0.0	64.7
2 女に生まれたい	4.3	21.2	0.8	0.5	0.0	26.9
3 その他	1.1	1.2	1.4	0.5	0.0	4.3
4 D. K	1.7	1.6	0.2	0.5	0.0	4.1
5 脱落	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
計	64.2	30.2	3.4	2.3	0.0	100.0 (1339)

注) 表中の数字は $n=1339$ を 100% にした比率を示す。

$$\hat{C}(r) \approx 0.60, \text{ Bias} \approx 0.0001 \quad 2\sqrt{M \cdot S \cdot E} \approx 0.04$$

* 「立派な人物」の単純一致率および一致率は選択肢をまとめたものから計算した。第 20 表の(注) 参照

「立派な人物」のうち「福沢諭吉」(第 20 表参照)に対する一致率が 0.35 以上になり、他の項目は 0.2~0.3 程度の値になる。一致率が高い項目の中で「政治関心」が連続型の 4 項選択、「福沢」が 5 項選択であるほかは 2 項選択であるが、2 項選択の項目が高い方に並ぶということも見られない。

つぎに、一致率の低い方をみると、単純一致率でも値の低かった、問 8「先生の悪事」の付加質問 問 8c, および d が 0.15 前後で最も低く、立派な人物のうち「足利尊氏」などが 0.2 以下であり、このほか単純一致率はそれ程低くなかった 問 13「社会問題に対する関心」のうち「物価問題」に対する関心度や、立派な人物のうち「伊能忠敬」(第 21 表参照)、「西郷隆盛」等の一致率も 0.2 以下になる。また、単純一致率では高い値を示した「人情課長」や、立派な人物のうち「二宮尊徳」、「伊藤博文」、「聖徳太子」、「豊臣秀吉」に対する一致率もほぼ 0.2 程度である。

第 20 表 問 11 立派な人物「福沢諭吉」 <一致率の高い方の例>

後 前		1	2	3	4	7	5	6	8	0	計
1	非常に立派	29.7	8.3	0.4	0.0	1.1	2.5	0.4	0.3	1.0	43.8
2	まあ立派	6.4	7.7	0.3	0.1	0.3	1.4	0.3	0.3	0.5	17.3
3	それ程立派でない	0.2	0.7	0.2	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	1.6
4	立派とはとても思えない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
7	全部立派	4.1	1.3	0.1	0.0	0.7	1.9	0.1	0.2	0.6	9.0
5	この人物を知らない	2.0	2.6	0.2	0.1	0.4	11.1	1.2	0.6	0.4	18.6
6	D. K.	0.6	0.3	0.0	0.0	0.0	1.1	0.2	0.1	0.3	2.7
8	全部 D. K.	1.2	0.9	0.1	0.0	0.4	2.8	0.2	1.0	0.1	6.7
0	脱落	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
計		44.4	21.8	1.3	0.1	3.1	21.1	2.5	2.5	3.0	100.0 (1339)

注) 表中の数字は $n=1339$ を 100% にした数字

なお、一致率の計算には、選択肢を 1+2+7, 3+4, 5, 6+8+0 とまとめている。他の「立派な人物」の場合も同じ

第 21 表 問 11 立派な人物「伊能忠敬」 <一致率の低い方の例>

後 前		1	2	3	4	7	5	6	8	0	計
1	非常に立派	6.3	3.7	0.1	0.0	0.3	1.8	0.3	0.1	0.2	12.9
2	まあ立派	3.3	6.2	0.7	0.1	0.3	3.7	0.1	0.1	0.4	14.9
3	それ程立派でない	0.4	0.6	0.6	0.0	0.1	0.4	0.1	0.0	0.1	2.2
4	立派とはとても思えない	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.5
7	全部立派	1.7	1.7	0.2	0.0	0.7	3.5	0.3	0.2	0.5	8.8
5	この人物のことを知らない	3.1	5.8	1.4	0.3	1.2	30.8	2.8	0.7	1.3	47.6
6	D. K.	0.3	0.7	0.3	0.0	0.1	3.8	0.2	0.3	0.4	6.1
8	全部立派	0.4	0.4	0.2	0.0	0.4	3.8	0.3	1.0	0.1	6.7
0	脱落	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2
計		15.5	19.3	3.7	0.4	3.1	48.3	4.2	2.5	3.0	100.0 (1339)

注) 表中の数字は $n=1339$ を 100% にした数字

これからみると、一致率 $C(r)$ は、何かの意見をふだんからももっていそうな項目で割合高く、誰でもがとびつくような選択肢のある（集中率の高い）項目で、見かけの単純一致率が高い値を示すようなものに、案外一致率が低い値を示す場合がみられる。

また、「立派な人物」や「関心」以外の多項選択の質問項目で一番一致率の高いのは、問 19「天皇制のあり方」で、一致率は 0.34 になる。

ここで、基本項目について二、三ふれておく、まず、基本項目としては、性、年齢、学歴、職業を考え、この他、これに類似の項目として支持政党、宗教をとり上げた。このうち、性、年齢はそれ自体が前後サンプルの確認に用いられているし、名簿から引き写されるのでその変動が調査結果の中に誤差として入り込むことはほとんどない。

しかし、学歴、職業は、事実についての質問項目ではあるが、今回の調査の立場として「一定の質問による被調査者の回答を中心に一致、不一致をみる」という方針で分析した。従って、被調査者の回答の変動による不一致、調査状況の変動による不一致が調査結果に入りこむ余地がある。職業についてみると、たとえば、被調査者が小企業の主婦に当るとき、ある調査場面では、たまたま家事をやっていたので調査員の質問に対する回答は「家庭の主婦」となり、他の調査場面で店の手伝いをしているときに質問され、回答は「主人の店の手伝いをしている」となるなどである。従って、この場合の回答変動は特定の職業分類（家族従業と主婦、農業と主婦、等）で若干起るだけであると考えられるが、実際の一致率は男で 0.9 ていどに止まる。

また、学歴については、学制の変化で中学、高校の区別と旧制の小学（尋常科）と高小（高等小学）の区別が簡単な質問では判別しにくいので意外に一致率が低い。「事実を聞く項目だから誰でもいつも同じ回答をするだろう」と簡単に考えるのは非常に危険なことであると思われる。

これと並んで宗教などの質問も考えるべき点がある。たとえば「あなたは宗教を信じていますか？」という質問の回答として「家の宗旨は〇〇宗だ」という回答が得られたとき、ある場合には〇〇宗の信者として判断され、別の場合には「本人は信者ではない」と判断されることになり、このようなことが実際の調査場面で起る可能性が多いと考えられる*）。

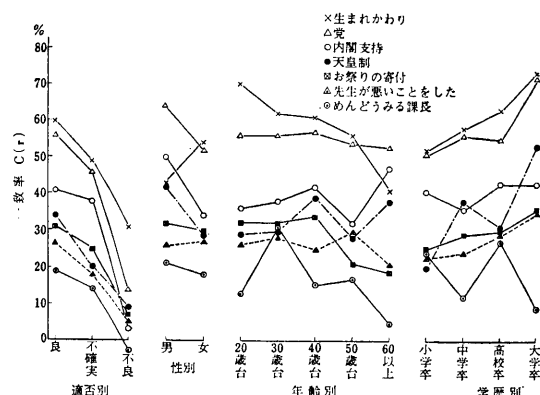
従って、このような事実と関係のある項目でも、正確な判定という点からみて問題があるわけ、これらの項目に意見の項目を含めて、より正確な測定ができるように調査条件を改善していくことが調査法の今後の問題である。

c) 階層別にみた一致率（＜良＞グループのみ）

つぎに、被調査者の性別、年齢別、学歴別、等にかけて、各質問項目の一致率をみると、性別では、問 1「男女の生まれかわり」、問 7「入社・恩人の子供」、問 9「恩人のキトク」、問 12「政治関心」等で女の一致率が高くなるが、その他の項目では大部分男の方が高い値を示している。

また、年齢別にみると、どの年齢層が特に一致率が高いという傾向もなく、質問項目あるいは、質問内容との関連からみても、はっきりした傾向はみとめられない。

つぎに学歴層別にみると、大部分の項目で高学歴層一致率が高くなる傾向があり**）、この反対の傾向を示す項目は、「宗教を信じるか」だけである。また、問 4「校長の礼服」、問 5「P.T.A の寄



第3図 階層別一致率 $C(r)$ の一例

* [26] p. 169 前後クロス集計表参照

** §6 の第 27 表の最下行に学歴別にみた一致率の平均値を示してある

付), 問 8 c. d 「先生の悪事」の追及質問, 立派な人物のうち「聖徳太子」, 「野口英世」, 関心の問題の「憲法関心」, 「選挙関心」等では一定の傾向がみられない。

階層別にみた一致率の模様の例を示すと第 3 図 (前頁下) のようになる。

§ 5 回答のとり方の問題

質問項目をきめたとき, 質問文は全く同じでも回答選択肢の文章が変れば回答は変ってくるし, 用意する選択肢の数によっても回答の周辺分布は変ってくる。このため同一の質問項目について各種の選択肢を用意して, 回答結果を比較することが考えられる。ここでは 2, 3 の例について比較した結果を示そう。

1) 社会問題に対する「関心度」の例

社会のいろいろな問題についての関心度をみるため, 調査項目は同じにして二種類の選択肢を作成し比較した。選択肢は一方が 3 肢, 他方が 4 肢である (表参照)。

第 22 表 選択肢の内訳

白調査票	1 あまり関心がない	2 関心がある	3 非常に関心がある	
赤調査票	1関心がない	2 あまり関心がない	3 やや関心がある	4 関心がある

まず, 全体での回答分布をみると, このまゝでは両者の比率でうまく合うようなところはない (付録 II の第 30~36 表参照)。しかし, 適当に選択肢をまとめ, 白調査票の選択肢 1 と赤調査票の選択肢 1+2 を考えると, 両者の比率はよく合ってくる (第 23 表参照)。

第 23 表 回答のとり方と選択肢のまとめ

項 目	憲 法	選 挙	社会保障	教 育	交 通	物 価	防 衛
白 1 の比率	45	24	21	14	9	8	37
赤 1+2 の比率	45	25	21	16	10	11	39

その上, これらは共に「関心がない」という言葉で表せるので同じような質問の仕方になっているわけである。

しかし, 回答の信頼度という面からみると, 第 24 表のようになり, 回答のとり方, 選択肢の数, そのまとめ方によって一致率は異なってくる。関心の相手がどの問題であるかによっても多少ちがった様子がみえるのでどちらの調査票の選択肢がよいか速断はむずかしい。

第 24 表 「関心」の一致率 $C(r)$ < 選択肢のまとめ >

選択肢のまとめ方		憲 法	選 挙	社会保障	教 育	交 通	物 価	防 衛	選択肢数
白	1, 2, 3,	34	28	25	24	22	19	21	3
	1, 2 + 3	43	33	32	26	25	20	27	2
	1 + 2, 3	24	30	30	30	27	20	29	2
赤	1, 2, 3, 4	25	26	22	22	21	19	24	4
	1+2, 3+4	38	31	23	21	17	16	34	2
	1, 2+3, 4	28	32	29	28	25	23	28	3

どちらかといえば白型の選択肢の方が安定しているようにみえるが, 更に比較検討する必要がある。

2) 「政治関心」の場合

つぎに同じような質問項目で政治関心についてみた例を示そう。この場合は一方に「どちらともいえない」をつけ加えたのである。「どちらともいえない」という選択肢は、普通意見のはっきりしていない場合に選択されることが多いと考えられるし、浮動票のようなものであるからこの選択肢を作らないでよく、本来ここに入るべきものを、それぞれの意見の方に押し込んでしまうので回答変動が多くなりそうに思われる。しかし、実際には「どちらともいえない」という選択肢を作らない方が一致率は高くなっている。前後クロス表からみると（第 25 表参照）、関心の程度があまり高くない層における変動が大きいので、この中間層を全部まと

第 25 表 政治関心 <回答のとり方の比較>

A <白調査票>

前 \ 後							小計	%
	1	2	3	4	5	6		
1. 関心がある	○ 62	◎ 47	× 9	× 4	0	1	123	19
2. やや関心がある	◎ 29	○ 153	● 57	× 16	0	1	256	39
3. あまり関心がない	× 7	● 43	○ 106	◎ 30	0	1	187	29
4. 関心がない	× 2	● 9	◎ 28	○ 38	1	2	80	12
5. そ の 他	0	0	0	0	△ 0	0	0	0
6. D, K,	0	0	2	3	0	△ 2	7	1
計	100	252	202	91	1	7	653	100
%	15	39	31	14	0	1	100	

B <赤調査票>

前 \ 後								計	%
	1	2	4	5	3	6	7		
1. 関心がある	○ 83	◎ 31	× 5	× 3	6	0	0	128	19
2. やや関心がある	◎ 31	○ 128	● 31	× 11	27	1	2	231	34
4. あまり関心がない	× 14	● 38	○ 58	◎ 21	20	0	1	152	22
5. 関心がない	× 3	× 4	◎ 27	○ 17	5	0	2	58	8
3. どちらとも言えない	6	25	30	8	△ 36	0	2	107	16
6. そ の 他	0	1	1	0	0	△ 0	0	2	0
7. D, K,	0	0	0	4	1	0	△ 2	8	1
計	137	227	152	64	95	1	10	686	100
%	20	33	22	10	14	0	1	100	

めて考える方がよさそうに見える。しかし、白調査票の場合は、中間をまとめても一致率はほとんどよくなり、かえって「関心のある方」と「ない方」にわけた方がよさそうである。赤調査票では「どちらともいえない」を独立させて「関心のある方」と「ない方」にわけた場合と中間の3つをまとめた場合とで一致率はほとんど変らない。その上、どちらの調査票の場合も中間をまとめた場合の一致率は同じような値になる(第 26 表参照)。

従って、このような質問項目では選択肢の作り方が調査目的からみて妥当なものであるかどうか、十分検討するとともに、どのような選択肢を用いて関心の程度をわけるのがよいか検討する必要がある。

第 26 表 政治関心の一致率と
選択肢のまとめ<良>

選択のまとめ	C(r)	選択肢数
1, 2, 3, 4	0.37	4
白 1+2, 3+4	0.52	2
1, 2+3, 4	0.39	3
1, 2, 3, 4, 5	0.32	5
赤 1+2, 3, 4+5	0.39	3
1, 2+3+4, 5	0.395	3

§ 6 一致率 $C(r)$ についての一つの解釈1) 一致率 $C(r)$ とモデル

これまででは、個人の回答が何故変動するかということについては、その原因を問題にしなかった。ここでは、問題を非常に簡単にしてつぎのようなモデルを考えてみる。

仮定としては、ある質問文を一定の調査形式のもとで調査するとき、特定の調査員、特定の被調査者の組み合わせを含めて、前後の調査の条件が同じようであれば、始めの調査である選択肢 i を選択した人は、次の調査でも同じ選択肢をえらぶものとする。

また、調査条件が指示通りのとき、各被調査者にとって、質問文が容易に理解されるもので、何時でも同じようなイメージをもつことができる場合と、そうでなく、調査される時期ごとにいつも始めての調査としてのイメージをもつような場合とがあるものとする。

前後調査で回答が i から j -選択肢に変わるのは、後者のような場合に、始めの調査と後の調査とで、調査条件が変わり、それが回答変動をひき起すほどの変化になったものとする。

このとき、後の調査でどの選択肢が選択されるかは、始めの調査のときに選択される場合と同じであるから、いわば、母集団において、調査条件の組合せによって各選択肢が選択される割合と同じ割合で選択肢がえらばれるものとする。

二度目の調査のとき、 r -質問項目について始めての調査としてのイメージをもち、回答選択肢の選択に当って、前調査の影響を受けない状態になる割合を $\varepsilon^{(r)}$ とする。このとき r -質問項目について、始めの調査で i -選択肢、次に j -選択肢ということの起る割合 $P_{ij}^{(r)}$ は

$$\begin{aligned} P_{ij}^{(r)} &= P_i^{(r)} \varepsilon^{(r)} \quad P_{ji}^{(r)} = P_{ji}^{(r)} \\ P_{ii}^{(r)} &= P_i^{(r)} \{ (1 - \varepsilon^{(r)}) + \varepsilon^{(r)} P_i^{(r)} \} \end{aligned}$$

である。ただし、 $P_i^{(r)}$ ($i = 1, 2, \dots, k$, 選択肢数) は r -質問項目について、母集団において選択肢 i を選択する割合であり、 $\varepsilon^{(r)}$ は r -質問項目について、調査ごとに始めて調査を受けるような状態にある人の割合である。

r -質問項目についての単純一致率の期待値は

$$\sum P_{ii}^{(r)} = 1 - \varepsilon^{(r)} (1 - \sum P_i^{(r)2})$$

である。これはいわば見かけの一致率である。

上の関係から

$$1 - \varepsilon^{(r)} = \frac{\sum P_{ii}^{(r)} - \sum P_i^{(r)2}}{1 - \sum P_i^{(r)2}} = C(r)$$

となり、前節で用いた一致率が導き出される。このように前にのべた一致率 $C(r)$ は前後調査における r -質問項目の理解の状態を含めた回答の安定性を示していると考えられることになる。もちろんその質問項目についてはっきりした意見をもっている人が多ければ $C(r)$ は高くなるわけである。

また、この $\varepsilon^{(r)}$ は実際には調査における質問項目の理解の程度やその質問項目についての記憶の問題と関係しているであろうが、単純に記憶との関連だけを考えると、時間の関数として、 $\varepsilon^{(r)}(t)$ のように表わすことができる。時間間隔をかえて同一のパネル調査を実施し、一致率を比較分析すれば $\varepsilon^{(r)}(t)$ の様子がわかり、さらに細かい回答変動の分析ができるものと考えられる*)。(もちろん、同一質問項目について理解しやすい形の質問とそうでない形式のものを作ることができ、理解度との関係をつけることができれば、理解の程度と一致率との関係もつけられよう)。

2) 質問項目の記憶と一致率

一致率 $C(r)$ は上のように、その質問項目について考えたことがあるとか、あるいは質問文を聞いたとき前と同じような印象を受け、理解して回答する場合がどのくらいになるかという目安になると考えられる。逆に上にのべた $\varepsilon^{(r)}$ は r -質問項目について、前回質問されたと

* 時点をかえたパネル調査の結果は現在分析中で近い将来彙報に発表される予定である

きの記憶あるいは印象がなくなって、全く新しい状態で次の調査のとき質問をうける人の割合がどのくらいあるかを示しているから、前の記憶があれば、当然 $\varepsilon(r)$ は小さくなり、従って一致率は高くなることになる。

もっとも、前の調査の記憶といっても非常にあいまいな表現であるから後調査の終わった時「大部分の質問項目について前に一度調査された記憶があるかどうか」を質問した結果と一致率とを比較してみよう。

一致率の方は調査にとり上げた質問のうち 64 項目の平均値を考えることにした。第 27 表をみると、傾向的にはよく合っている。これは「このような質問項目を前に質問されたことがある」という記憶であるが「質問されたようなことをふだんから考えている」とか「考えたことがある」という調査項目を入れて分析すればもう少しはっきりしたことが分ると考えられる*)。

第 27 表 質問項目の記憶 <学歴別>

赤 調 査 票	小 学	中 学	高 校	大 学	全 体
大部分覚えている	20	40	59	63	46
あまり覚えていない	35	37	25	20	31
ほとんど覚えていない	39	19	11	7	18
そ の 他	6	4	5	10	5
計 (サンプル数)	100 (102)	100 (281)	100 (226)	100 (71)	100 (686)
一致率の平均値	18.2	23.2	26.5	30.9	25.2

実際のデータからみると、前項にのべたようなモデルを考えることも可能な状態であるから、このようなモデルをもとにして回答の機構を考察することができる。

たとえば、質問文を回答の安定性からみた難易の程度に分類して、「はつきりイメージの得られる質問であるかどうか」ということを検討することも考えられる。

従って、質問項目や回答選択肢を作成する場合どのようにすればよい調査が出来るかという目安もつけられるわけで、調査票全体の構成を考えると、一致率 $C(r)$ を考慮していくのが一つの方法であると考えられる。

要 約

1. 質問紙を用いる社会調査には調査結果に種々の誤差があると考えられるが、ここでは主に回答変動について分析した。
2. 回答変動に集点を合わせるため、調査実施の際、われわれのとった方策は、
 - ① 調査実施条件として、回答票を用意し、調査員に対する説明を特定のものにする。
 - ② 調査実施状況を確認する手段として、筆跡判定、郵便調査、再調査による記憶等を用いる。
 - ③ 質問内容の理解を助ける調査票の構成を考える。
 等である。
3. 前後調査の結果、回答の分布状況は、多くの質問項目について
 - ① 客観情勢の変化や、調査条件の変化がなければ前後調査の周辺分布は安定し、前後クロス表をみると多くの質問項目で対角線に対して対称の模様を示すことがわかる。
 - ② 個人の回答模様をみると回答変動（同一人に同一質問項目を時期をおいて二度調査し

* 別に実施している態度構造の分析における調査結果にはこのような質問があり、「大部分ふだん考えていることだ」という回答は 20% ほどになっている

た結果回答の変ったもの)は、かなり存在し、単純一致率(見かけ上前後調査の結果が同一になった比率)を尺度にしてみると前後調査の間隔が約1ヶ月では70%~80%前後、約6ヶ月間隔では50%~70%前後である。

4. この単純一致率は回答選択肢の数、回答分布の模様(集中度)に深く関係するので標準化した一致率 $C(r)$ が分析に適している。
5. 一致率 $C(r)$ は回答が安定しているかどうか(前調査の回答がそのまま持続している割合)を示す一つの尺度とみられる。
6. 調査結果より各質問項目について $C(r)$ を計算すると、2. 3 の質問項目で40%以上になるが、大半の質問項目では20%~30%台になる、とくに質問内容のはっきりしないものでは10%台になるものもみられた(約6ヶ月間隔の調査結果)。
7. また、階層別の一致率は、

- ① 調査状況の適否別にみると、<良>グループの一致率は、<不良>グループにくらべ格段に高く、<不良>グループではほとんど10%以下で、前後調査における回答の関連がごくうすく、ほぼ独立と考えられる(これは前後調査の適否の判定がうまくいったことを示すとともに、このような類別が回答の安定度をます可能性があることを示すものといえよう)。

しかし、このように調査状況を類別しても<良>グループの一致率がそれ程改善されないことは注目すべきであろう。

- ② 基本項目(性、年齢、学歴等)別にみると、学歴の高い層の一致率はやゝ高くなる傾向がみられるが、年齢別にみた場合一般的な傾向はみられない。
8. 以上により、各質問項目と回答の安定性との関連について、かなり分析を進めることが出来た。
9. 一致率 $C(r)$ については前後調査の時間的間隔による変化も考えられるし、回答変動の前後クロス模様をみると、適当な確率モデルの構成も可能と思われる。

さらに調査資料を収集しなければどのようなモデルが妥当なものか明確ではないが、たとえば潜在構造モデル、ランダムな変動モデル、推移確率モデル、時間減衰モデル等が考えられよう*。

お わ り に

この研究報告は、一昨年(1966年)から実施している「社会現象の統計的モデル化の研究」の一環としておこなった、社会調査における回答の信頼性に関する研究調査から得られた結果のうちの一部である。

研究調査の実施にあたり、終始変らぬご激励をいただいた統計数理研究所長末綱恕一先生に厚くお礼申し上げる次第である。

また、報告を作成するに当たり、非常に多くの方々のご協力をいただいた。とくに研究委員会の林知己夫、青山博次郎両部長をはじめ、西平重喜、野田一雄の各氏にいろいろお教えいただいた。

さらに、分析には高橋宏一氏に種々の点でご協力をいただいた。集計、計算には研究室の内野節子さん、山田幸江さんをはじめ山口栄子さん、杉浦和子さん、中本輝雄君にお世話になった。ここに記して、これらの方々に謝意を表します。

統計数理研究所

文 献 と 資 料

- [1] 統計数理研究所国民性調査委員会：『日本人の国民性』，至誠堂，1961。
- [2] 青山博次郎，林知己夫，西平重喜：「質問紙法における諸問題—質問形式についての考察」—『統計数

* これらのモデルについては現在分析を進めている。近い将来発表の予定である

- 理研究所輯報』9号, 10号, 1952.
- [3] 青山博次郎:「面接調査法における偏りの統計的研究 I」,『統計数理研究所彙報』,第6巻,第2号, 1958.
 - [4] 林知己夫:「回答誤差等を考慮に入れた標本調査計画」,『統計数理研究所彙報』,第5巻,第1号, 1957.
 - [5] 林知己夫:「態度数量化の一方法 II」,『統計数理研究所彙報』,第6巻,第1号, 1958 およびその訂正(第8巻,第1号).
 - [6] 西平重喜:「面接調査法の諸問題,その1,2,3,4,5」,『統計数理研究所彙報』,第3巻,第1号, 1955 第4巻,第2号, 1956 ; 第5巻,第2号, 1957 ; 第6巻,第1号, 1958 ; 第12巻,第1号, 1964.
 - [7] 西平重喜:「パネル調査の問題点」,『調査と技術』,1959年6月号,電通.
 - [8] 多賀保志:「郵便調査法について」,『統計数理研究所彙報』,第3巻,第1号, 1955.
 - [9] 鈴木達三:「面接調査における回答誤差」,『統計数理研究所彙報』,第12巻,第1号, 1964.
 - [10] 林知己夫:「調査と誤差」,『統計』8月号, 1960, 統計協会.
 - [11] 林知己夫:「調査をどう処理するか 1-8」,『広告統計月報』1965, 8月号~1966, 5月号, 朝日新聞広告部.
 - [12] 野田一雄:「マスコミの効果 III—回答誤差の分析—」,『数研研究リポート 15』, 1966, 統計数理研究所.
 - [13] 野田一雄:「回答の信頼性」,『統計数理研究所彙報』第14巻,第2号, 1966.
 - [14] 林知己夫:「社会現象のモデル化について」,『科学基礎論研究』,第8巻,第2号, 1967.
 - [15] 林知己夫:「市場調査計画の基礎—調査誤差の取扱い方—」,『マーケティング講座』第8巻,「市場調査」7頁-27頁,有斐閣, 1967.
 - [16] 林知己夫, 村山孝喜:「市場調査の計画と実際」, 315頁-321頁, 日刊工業新聞社, 1967.
 - [17] 林知己夫:「統計数理の立場からみた測定の問題」,『科学基礎論研究』,第6巻,第4号, 1964.
 - [18] 林知己夫:「社会調査における回答誤差—それに基づく歪みをどう補正するか」,『創立20年記念論文集』NHK放送文化研究所 1967.
 - [19] 青山博次郎:「態度変化のモデル」,『統計数理研究所彙報』第15巻,第2号, 1967.
 - [20] 鈴木達三:「意見の安定性について」,『日本世論調査協会報』第11号, 1968,
 - [21] 国民性の研究『数研研究リポート』No. 5, No. 6, No. 7, No. 8, No. 11, No. 14,
 - [22] マス・コミの効果『数研研究リポート』No. 2, No. 3, No. 15,
 - [23] 東京定期調査の結果『数研研究リポート』No. 16, No. 18,
 - [24] 西平重喜:「世論調査のメモから」,『協和広告 AD Review』No. 41, 1968.
 - [25] 鈴木達三:「国民性の研究—第三次全国調査について」,『統計数理研究所彙報』第11巻,第2号, 1963.
 - [26] 研究委員会:「社会現象の統計的モデル化の研究(1967年全国パネル調査)」,『数研研究リポート』No. 19, 1968,
 - [27] 鈴木達三, 高橋宏一:「パネル調査結果分析のための一致指数」,『統計数理研究所彙報』第16巻,第1号 1968,

付 録 I 質 問 項 目 一 覧 表

表 の 説 明

- 表 No : 質問文と集計表の表番号
- 問 No : 全国調査の質問順序を示す
- 項 目 : 質問項目の見出し, 付録の見出しと同一
- 調 査 票 : <全>は白赤共通の質問項目, <白>は白調査票, <赤>は赤調査票
- タ イ プ : 回答選択肢の型を示す, ローマ字は型, 添数字は主要選択肢数を示す
 A) 二項, B) 多項, C) 自由回答, D) 多項 (類似一致あり), F) 人物 (多項, 類似一致), G, H) 連続多項
- 単純一致率 : 前・後調査における回答が全く同一のものの比率
 <全体>は集計サンプル全体について
 <良>は適否別で前後同一人を調査した場合の一致率, 他も同じ, なお, <全体>, <良>については, 類似カテゴリーを一括した場合の一致率を上段に並記してある。
- 一致率 $C(r)$: <全体>, <適否別>, および<良>グループについて性, 年齢, 学歴, 調査員種別の一致率を % で示してある。
 (立派な人物の $C(r)$ は類似したカテゴリーをまとめた場合についてのみ計算してある)
- 備 考 : 質問項目の類別, 変更の有無を示す。
 <KS>は国民性調査で使用了項目
 <新>はこの調査で新しく作成した項目
 <EF>はマス・コミュニケーションの効果の調査で使用了項目

質問項目の一覧表

表 No.	問 No.	項 目	調 査 票	タ イ プ	単 純 一 致 率 (%)								
					全 体	良	不 確 実	不 良	全 体	良	不 良	性	
												男	女
1	1	男女の生まれかわり	全	A- 2	77.8	80.1	73	69	56	60	31	43	54
2	2	心の豊かさはへらないか	白	A- 2	65.6	69.1	59	51	21	24	2	31	20
—	2	〃	赤	前- 2 後- 3	59.4	62.7	52	47	13	15	9	14	14
3	3	スジを通すか、 丸くおさめるか	全	A- 2	62.7	64.7	63	48	32	36	8	35	36
4	4	校長の礼服	白	A- 2	61.9	65.2	55	49	32	38	13	42	34
—	4	〃	赤	A- 2	59.1	60.6	55	55	27	30	16	32	28
5	5	P. T. A. の寄付集め	白	B- 4	36.2	38.6	33	23	18	21	2	20	21
—	5	〃	赤	前- 4 後- 5	23.0	24.4	20	19					
6	6a)	めんどろをみる課長	白	A- 2	78.6	79.5	81	67	16	19	— 3	21	18
—	6c)	〃	赤	A- 2	74.1	76.5	71	61	17	21	— 1	26	16
—	6b)	甲課長のイメージ	白	C	72.3	74.0	72	60					
—	6a)	〃	赤	C	70.3	71.3	67	69					
—	6c)	乙課長のイメージ	白	C	74.3	74.9	75	70					
—	6b)	〃	赤	C	73.5	74.6	70	71					
7	7a)	会社で職員を採用するとき (親戚)	白	A- 2	70.0	73.7	66	49	25	28	— 5	32	25
—	7b)	〃	赤	A- 2	64.4	67.6	55	56	28	33	9	34	32
8	7b)	会社で職員を採用するとき (恩人の子)	白	A- 2	56.4	59.1	52	43	24	29	1	32	27
—	7a)	〃	赤	A- 2	65.4	67.5	65	51	24	29	8	26	32
9	8a)	先生が悪いことをした	全	A'- 3	54.1	56.4	52	42	23	27	5	26	27
—	8b)	先生のイメージ	白	C	84.4	85.3	88	72					
—	8b)	〃	赤	C	73.3	75.5	70	63					
10	8c)	子供の教育を考えたとき	白	A'- 3	45.9	46.7	45	41	15	16	7	19	14
—	8d)	〃	赤	A'- 3	44.6	46.2	44	45	18	20	5	23	18
11	8d)	先生全体の立場を 考えたとき	白	A'- 3	41.5	41.2	44	38	14	14	8	13	14
—	8c)	〃	赤	A'- 3	39.7	40.8	39	32	13	15	1	14	15
12	9a)	恩人がキツクるとき	白	A- 2	57.2	58.3	58	48	19	19	13	16	20
—	9a)	〃	赤	A- 2	63.3	65.3	64	48	25	25	8	5	25
—	9b)	会議に出席した 時のイメージ	白	C	79.5	81.5	78	66					

[illegible]

表 No.	問 No.	項 目	調 査 票	タ イ プ	単 純 一 致 率 (%)				性				
					全 体	良	不 確 実	不 良	全 体	良	不 良	男	女
—	9b)	故郷に帰った 時のイメージ	赤	C	79.8	80.2	84	71					
13	9c)	南山さんのイメージ	白	D- 6	37.0	38.1	39	26	15	17	8	13	18
—	9c)	”	赤	D- 6	39.2	40.7	43	24	14	17	— 3	17	16
14	10	お祭の寄付	全	A- 2	70.6	71.6	73	58	27	31	7	32	30
15	11- 1	立派な人物、聖徳太子	全	F- 5	71.1 45.9	73.2 49.1	37	37	16	21	— 2	25	19
16	- 2	楠木正成	全	F- 5	64.6 36.7	66.5 40.1	29	25	20	24	11	29	20
17	- 3	足利尊氏	全	F- 5	44.2 33.6	46.3 36.1	29	22	15	18	— 2	24	11
18	- 4	豊臣秀吉	全	F- 5	68.7 38.7	69.0 41.2	35	27	20	21	13	23	19
19	- 5	徳川家康	全	F- 5	58.4 34.1	58.6 35.6	30	30	21	22	12	26	19
20	- 6	新井白石	全	F- 5	54.7 37.3	58.3 40.4	31	25	17	23	— 5	24	20
21	- 7	伊能忠敬	全	F- 5	54.1 43.0	56.8 46.9	37	32	13	18	— 6	30	4
22	- 8	二宮尊徳	全	F- 5	78.3 50.6	79.2 54.0	44	39	18	21	8	20	21
23	- 9	西郷隆盛	全	F- 5	68.9 38.0	69.5 40.0	34	30	15	17	6	19	15
24	-10	福沢諭吉	全	F- 5	68.9 46.8	72.0 50.7	35	37	31	36	5	36	34
25	-11	伊藤博文	全	F- 5	65.9 37.7	67.9 41.2	29	27	19	22	7	19	21
26	-12	乃木希典	全	F- 5	67.6 40.8	68.6 43.4	38	27	24	26	13	27	25
27	-13	明治天皇	全	F- 5	73.5 49.0	74.5 50.9	46	39	26	24	— 0	26	23
28	-14	野口英世	全	F- 5	75.8 50.3	77.7 53.1	43	42	22	26	6	26	26
29	12	政治問題に関心があるか	白	G- 4	73.0 52.9	75.8 55.3	54	33	34	37	5	31	38
—	12	”	赤	G'- 5	61.3 44.8	63.3 47.2	42	33	29	32	12	41	23
30	13a	「憲法の問題」に 関心があるか	白	H- 3	65.3 55.2	68.8 57.7	57	33	30	34	— 4	28	37
31	13b	「選挙」に関心があるか	白	H- 3	71.9 50.0	73.7 52.7	44	41	24	28	10	26	26
32	13c	「社会保障の問題」 に関心があるか	白	H- 3	69.0 46.4	71.4 48.7	43	35	22	25	4	28	21
33	13d	「教育の問題」に 関心があるか	白	H- 3	75.9 48.6	78.4 51.9	46	28	20	24	11	28	22

一 致 率 $C(r)$ の 推 定 値 (%)											備 考
年 齢					学 歴				調 査 員		
20～29	30～39	40～49	50～59	60以上	小	中	高	大	特	一般	
											新
16	21	11	20	6	13	16	17	5	14	17	新
17	20	12	16	13	5	20	16	21	14	17	新
32	32	34	21	19	25	29	30	36	34	31	新
31	14	20	24	15	21	17	23	16	21	21	KS
20	19	21	19	11	11	21	23	59	14	25	KS
11	11	21	23	21	12	12	17	29	22	17	KS
25	11	22	34	18	21	16	25	24	17	22	KS
30	16	19	27	20	10	23	23	36	28	21	KS
20	21	19	30	21	— 5	20	24	33	21	23	KS
18	19	12	26	7	—26	8	22	28	28	16	KS
26	17	15	18	15	16	16	23	44	23	20	KS
19	11	18	19	16	11	19	16	21	15	18	KS
24	39	30	45	29	16	29	30	— 3	42	35	KS
21	16	23	30	25	19	19	14	36	28	21	KS
23	21	21	21	18	16	26	26	44	22	27	KS
19	23	23	24	23	19	26	27	34	27	24	KS
16	19	17	39	22	20	27	16	7	39	23	KS
45	35	38	31	34	26	34	46	38	39	37	マス・コミの効果の調査より (EF)
33	30	37	28	23	25	28	28	55	38	31	EF 選択肢白とちがう
37	33	44	33	13	21	37	34	29	25	36	EF
22	29	41	27	18	11	39	25	7	35	26	EF
26	26	25	20	20	14	26	22	41	29	24	EF
19	29	23	21	24	14	22	28	33	40	21	EF

表 No.	問 No.	項 目	調 査 票	タ イ プ	単 純 一 致 率 (%)				性				
					全 体	良	不 確 実	不 良	全 体	良	不 良	性	
												男	女
34	13e	「交通の問題」に 関心があるか	白	H- 3	83.8 52.7	85.6 55.9	48	36	17	22	-10	34	15
35	13f	「物価の問題」に 関心があるか	白	H- 3	84.0 55.9	85.2 57.3	55	48	18	19	8	19	18
36	13g	「日本の防衛問題」 に関心があるか	白	H- 3	58.2 44.2	59.3 44.6	46	38	21	21	13	20	18
30	13a)	「憲法の問題」に 関心があるか	赤	G- 4	64.7 41.3	66.5 43.6	40	27	23	25	4	26	21
31	13b)	「選挙」に関心があるか	赤	G- 4	70.7 46.9	72.2 48.8	46	34	24	26	6	28	24
32	13c)	「社会保障の問題」 に関心があるか	赤	G- 4	68.7 45.2	69.4 46.9	50	26	20	22	- 6	25	19
33	13d)	「教育の問題」 に関心があるか	赤	G- 4	73.8 49.6	75.4 51.3	49	38	20	22	5	29	17
34	13e)	「交通の問題」 に関心があるか	赤	G- 4	80.5 57.5	82.7 61.4	46	48	17	21	8	26	19
35	13f)	「物価の問題」 に関心があるか	赤	G- 4	81.3 59.3	81.9 60.4	58	54	19	19	8	20	19
36	13g)	「日本の防衛問題」 に関心があるか	赤	G- 4	62.1 40.5	63.7 41.8	43	28	23	24	6	28	19
37	14	小選挙区制に賛成か	全	A"- 2	30.4	32.3	28	19	6	9	-11	22	3
38	15	死刑廃止に賛成か	全	A- 2	58.2	59.3	57	52	18	20	5	27	16
39	16	義務教育の年数を長くす ることに賛成か	全	A"-前2 後3	63.0	66.5	57	47	30	35	5	39	32
40	17	内閣を支持するか	全	A- 2	57.1	59.4	59	37	37	41	3	50	34
41	18	現在の憲法をどう思うか	全	B'- 4	46.0	48.0	44	35	25	27	5	29	24
42	19	天皇制のあり方	全	B"- 4	70.8	73.1	65	64	29	34	9	42	29
43	20	低開発国への 経済援助理由	全	B'''-5	41.6	45.2	34	27	24	28	6	32	24
44	21	日本の実力を 世界に示す方法	全	B'''-5	39.9	42.3	38	26	25	28	8	28	27
45	22	万国博覧会評価	白	G- 4	71.2 53.2	72.3 53.5	54	49	27	27	10	24	28
—	22	”	赤	G'- 5	57.9 44.3	61.4 47.8	33	36	23	27	8	24	27
46	23	4 人の候補者	全	B- 4	43.2	46.9	40	26	27	31	5	32	30
47	職	職 業	全	職-11	82.1	84.8	79	68	79	81	60	89	71
48	党	支 持 政 党	全	党- 4	64.5	68.6	62	38	51	56	14	64	52
49	学	学 歴	全	学- 4	71.6	75.1	70	49	60	64	28	64	64
50	宗	宗 教	全	宗-11	66.9	72.7	66	55	49	54	19	55	55
サ ン プ ル 数			全		1822	1339	300	183	1822	1339	183	521	811
			白		892	653	153	86	892	653	86	240	413
			赤		930	686	147	97	930	686	97	281	405

一 致 率 C (r) の 推 定 値 (%)											備 考
年 齢					学 歴				調 査 員		
20～29	30～39	40～49	50～59	60以上	小	中	高	大	特	一般	
28	17	22	9	37	14	26	21	23	27	21	E F
24	20	27	3	15	7	23	18	29	37	15	E F
24	14	28	10	22	8	18	29	14	29	19	E F
23	29	24	20	23	16	23	28	23	29	24	E F 選択肢小変更
28	25	31	17	27	23	18	34	34	15	27	E F "
27	25	17	19	19	25	15	29	21	15	24	E F "
17	30	17	16	24	14	19	22	38	31	20	E F "
13	32	17	29	11	20	21	18	26	45	18	E F "
16	24	17	23	13	15	17	19	29	30	18	E F "
25	23	20	27	19	22	23	19	42	32	23	E F "
12	9	7	9	3	— 6	2	11	35	19	7	E F 前後選択肢数ちがう
25	21	15	20	17	20	13	20	49	29	19	E F 前後質問文小変更
39	39	35	24	32	25	33	42	34	42	34	E F 前後選択肢数ちがう
36	38	42	32	47	41	36	43	43	41	40	E F
24	27	23	20	38	20	24	28	31	28	27	E F
29	30	39	28	38	20	38	31	53	41	33	E F
33	31	25	20	24	26	19	31	46	31	27	E F
29	24	33	21	29	28	26	26	33	18	30	E F
30	27	32	17	26	20	35	20	29	27	27	E F
33	27	25	26	18	14	25	29	35	33	26	E F 選択肢白とちがう
31	35	30	27	25	26	26	36	41	30	31	新
84	81	83	78	71	68	82	81	93	82	81	—
56	56	57	54	53	51	56	55	72	59	56	—
84	59	57	55	52	—	—	—	—	69	63	—
43	58	44	54	48	57	53	53	51	66	52	—
300	352	268	240	179	237	549	435	109	203	1136	
145	169	133	119	87	135	268	209	38	107	546	
155	183	135	121	92	102	281	226	71	96	590	

付 録 Ⅱ 質 問 文 と 単 純 集 計 表

集計表の見方など

1. ここには、1967 年 2 月～3 月に行った全国調査（第Ⅰ次調査，前調査）と 1967 年 10 月～11 月に行ったパネル調査（第Ⅱ次調査，後調査）で使用した質問の全文と回答選択肢の全部（回答リストを使用したものは質問文の前に「リスト」と示してある。リストには「その他」，「D. K.」は記載してない）と前調査，後調査の単純集計，および＜適否＞*別の前・後単純集計，一致率を収録してある（但し白調査票のみ）。
 2. 記載した質問文は原則として第Ⅰ次調査で使用了ものを掲げ，後調査で小変更した場合はその箇所だけを*印をつけて下に示した。
問の前の☆印は質問文や，質問順序が，白，赤ちがうとき。
 3. 表について
 - i) 計欄の＜白＞，＜全＞はそれぞれ白調査票のみの結果，白，赤共通の結果を示す。また，左欄のⅠは第Ⅰ次調査（前），Ⅱは第Ⅱ次調査（後）を示す。
 - ii) 表中の比率は計を 100.0 として小数以下 2 位を 4 捨 5 入した％を示す。合計は 100.0 にならない場合がある。また，脱落は D. K. の中に含めてある。
- *）適否別は＜良＞，＜不良＞のみを示す。

第1表 男女の生まれかわり

問1 もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに生まれてきたいと思いますか？

- | | |
|---|---------|
| 1 男に生まれてきたい
2 女に生まれてきたい
3 その他〔記入〕 | 4 D. K. |
|---|---------|

			1.男に生まれてきたい	2.女に生まれてきたい	3.その他	4. D. K.	計	全 体	単 純一致率	C(r)
全 体	I		65.3	26.2	4.0	4.5	100.0	(1822)	77.8	0.56
	II		64.3	28.8	4.0	3.0	100.0			
適 良	I		64.7	26.9	4.3	4.1	100.0	(1339)	80.1	0.60
	II		64.2	30.2	3.4	2.3	100.0			
否 不 良	I		74.3	20.2	3.3	2.2	100.0	(183)	68.9	0.31
	II		67.2	23.0	5.5	4.4	100.0			

第2表 心の豊かさはへらないか

問2 こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

- | | |
|--|---------|
| 1 賛成（人間らしさはへらない）
2 反対（人間らしさへる）
3 その他〔記入〕 | 4 D. K. |
|--|---------|

			1賛 成 (人間らしさはへらない)	2反 対 (人間らしさへる)	3その他	4D. K.	計	白	単 純一致率	C(r)
全 体	I		73.7	13.9	2.4	10.1	100.0	(892)	65.6	0.21
	II		72.3	16.6	2.5	8.6	100.0			
適 良	I		76.0	12.7	2.9	8.1	100.0	(653)	69.1	0.24
	II		74.3	15.9	2.6	7.2	100.0			
否 不 良	I		72.1	17.4	0.0	10.5	100.0	(86)	51.2	0.02
	II		61.6	23.3	2.3	12.8	100.0			

第3表 スジを通すか丸くおさめるか

問3 〔リスト〕何人かで集まって、なにか相談をしているとき、あなたは、

「スジを通すこと」に重点をおく人と

「まるくおさめること」に重点をおく人と

どちらの人の方が感じがよいと思いますか。

この表の中から、どちらか1つをえらんでください？

- | | |
|---|---------|
| 1 「スジを通すこと」に重点をおく人
2 「まるくおさめること」に重点をおく人
3 その他〔記入〕 | 4 D. K. |
|---|---------|

			1 スジを通す	2 丸くおさめる	3 その他	4 D. K.	計	全 体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	I	36.1	56.1	6.4	1.5	100.0	(1822)	62.7	0.32
		II	36.8	55.6	6.1	1.5	100.0			
適 否	良	I	37.2	54.4	7.2	1.3	100.0	(1339)	64.7	0.36
		II	37.7	55.6	5.5	1.2	100.0			
	不 良	I	42.1	53.0	3.3	1.6	100.0	(183)	48.1	0.08
		II	37.2	51.4	8.2	3.3	100.0			

第4表 校 長 の 礼 服

問 4 [リスト] 小学校の卒業式などに、校長先生はモーニングなどの礼服を着てくるほうがよいでしょうか、それとも、着てこなくてもよいでしょうか。やはり、この表の、どちらか一方の答をえらんでください？

- 1 礼服を着てくる方がよい
2 礼服はいらない
3 その他〔記入〕

4 D. K.

			1 着てくる方がよい	2 いらない	3 その他	4 D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	I	49.6	43.7	3.9	2.8	100.0	(892)	61.9	0.32
		II	51.5	41.9	4.7	1.8	100.0			
適 否	良	I	49.3	44.4	4.7	1.5	100.0	(653)	65.2	0.38
		II	51.1	43.0	4.3	1.4	100.0			
	不 良	I	47.7	43.0	0.0	9.3	100.0	(86)	48.8	0.13
		II	52.3	37.2	8.1	2.3	100.0			

第5表 P. T. A. の寄付集め

問 5 [リスト] ある町の小学校では、設備をよくするため、毎年寄付をあつめるのがふつうになっています。

こんどは講堂を改築することになり、P. T. A から寄付あつめにやってきました。

ところが東さんは寄付をこたわり

『そのようなお金は当然町か国が出すべきで、自分たちにせおわせるべきではない』といいとおしました。

あなたは、東さんの態度をどう思いますか？

- 1 がんこものの態度だと思う
2 自分本位の態度だと思う
3 理屈っぽい態度だと思う
4 あっぱれな態度だと思う
5 その他〔記入〕

6 D. K.

		1がんこ ものの 態度	2自分本 位の態 度	3理屈つ ぱい態 度	4あっぱ れな態 度	5その他	6D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	10.2	32.5	13.9	25.9	8.5	8.9	100.0	(892)	36.2	0.18
	II	10.2	34.0	13.7	27.1	8.7	6.3	100.0			
適 良	I	10.4	32.3	14.2	26.5	8.9	7.7	100.0	(653)	38.6	0.21
	II	11.3	34.0	13.2	27.4	8.4	5.7	100.0			
否 不良	I	9.3	38.4	14.0	19.8	2.3	16.3	100.0	(86)	23.2	0.02
	II	5.8	32.6	16.3	20.9	11.6	12.8	100.0			

第6表 めんどうをみる課長

☆問 6 a) [リスト] ある会社につきのような甲, 乙 2 人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長につかわれる方がよいと思いますか、どちらか一つあげて下さい？

- 1 甲課長 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは、人のめんどうを見ません
 2 乙課長 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります。仕事以外でも、人のめんどうをよく見ます

		1甲の 課長	2乙の 課長	3その他	4D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	10.3	86.7	0.8	2.3	100.0	(892)	78.6	0.16
	II	9.9	84.8	1.7	3.7	100.0			
適 良	I	11.5	86.1	0.9	1.6	100.0	(653)	79.5	0.19
	II	10.4	85.3	1.8	2.4	100.0			
否 不良	I	4.7	88.4	0.0	7.0	100.0	(86)	67.4	-0.03
	II	12.8	75.6	1.2	10.4	100.0			

第7表 会社で職員を採用するとき (親戚)

☆問 7 a) [リスト] あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を一人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。

あなたはどちらをとれ (採用しろ) といいますか？

- 1 1 番の人を採用するようにいう
 2 親戚を採用するようにいう
 3 その他 [記入]
 4 D. K.

		1 1 番の 人を採用	2親戚を 採用	3その他	4D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	73.8	18.8	3.8	3.6	100.0	(892)	70.0	0.25
	II	76.5	17.9	2.8	2.8	100.0			
適 良	I	77.2	15.9	4.0	3.0	100.0	(653)	73.7	0.28
	II	78.6	17.0	2.6	1.8	100.0			
否 不良	I	59.3	32.6	0.0	8.1	100.0	(86)	48.8	-0.05
	II	75.6	12.8	5.8	5.8	100.0			

第8表 会社で職員を採用するとき (恩人の子)

☆問 7 b) [つぎのリスト] それでは、この場合、2番になったのがあなたの親戚の子供ではなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか？
(どちらをとれといいますか？)

1 1番の人を採用するよういう	
2 恩人の子供を採用するよういう	
3 その他〔記入〕	4 D. K.

			1 1番の人を採用	2 恩人の子供を採用	3 その他	4 D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体		I	50.8	38.1	5.6	5.4	100.0			
		II	52.6	39.6	2.8	5.0	100.0	(892)	56.4	0.24
適 良		I	51.6	37.5	5.7	5.3	100.0			
		II	52.5	40.4	3.5	3.5	100.0	(653)	59.1	0.29
否 不 良		I	48.8	40.7	1.2	9.3	100.0			
		II	58.1	31.4	2.3	8.1	100.0	(86)	43.0	0.01

第9表 先生が悪いことをした

☆問 8 a) [リスト] 「先生が何か悪いことをした」というような話を、子供がきいてきて、親にたずねたとき、親はそれがほんとうであることを知っている場合、子供には
「そんなことはない」
といった方がいいと思いますか、それとも
「それはほんとうだ」
といった方がいいと思いますか？

1 「そんなことはない」という	
2 「ほんとうだ」という	
3 その他〔記入〕	4 D. K.

			1 「そんなことはない」という	2 「ほんとうだ」という	3 その他	4 D. K.	計	全 体	単 純 一致率	C(r)
全 体		I	35.5	51.5	8.9	4.0	100.0			
		II	34.9	52.5	9.1	3.5	100.0	(1822)	54.1	0.23
適 良		I	35.1	51.8	9.5	3.7	100.0			
		II	34.2	53.2	9.0	3.5	100.0	(1339)	56.4	0.27
否 不 良		I	36.6	51.4	4.9	7.1	100.0			
		II	31.7	50.3	13.7	4.4	100.0	(183)	41.5	0.05

第10表 先生が悪いことをした (子供の教育を考えたとき)

☆問 8 c) [(a)と同じリスト] それでは、子供の教育のことを考えたとき、子供には、どのようにいった方がいいと思いますか？

1 「そんなことはない」という	
2 「ほんとうだ」という	
3 その他〔記入〕	4 D. K.

			1「そんなことはない」という	2「ほんとうだ」という	3その他	4D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		29.5	49.4	9.6	11.5	100.0	(892)	45.9	0.15
		II	29.3	51.8	11.0	7.9	100.0			
適 良	I		26.8	49.9	11.0	12.3	100.0	(653)	46.7	0.16
		II	28.9	53.1	11.3	6.9	100.0			
否 不 良	I		36.0	48.8	4.7	10.5	100.0	(86)	40.6	0.07
		II	24.4	51.2	9.3	15.1	100.0			

第 11 表 先生が悪いことをした（先生全体の立場を考えたとき）

☆問 8 d) [(a)と同じリスト] では学校の先生全体の立場を考えたとき、子供には、どのようにいうのがよいですか？

1 「そんなことはない」という	4 D. K.
2 「ほんとうだ」という	
3 その他〔記入〕	

			1「そんなことはない」という	2「ほんとうだ」という	3その他	4D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		33.6	39.7	9.5	17.1	100.0	(892)	41.5	0.14
		II	32.4	44.6	9.3	13.6	100.0			
適 良	I		30.5	40.1	11.5	17.9	100.0	(653)	41.2	0.14
		II	31.4	45.8	9.5	13.3	100.0			
否 不 良	I		45.3	38.4	1.2	15.1	100.0	(86)	38.2	0.08
		II	27.9	44.2	11.6	16.3	100.0			

第 12 表 恩人がキトクのとき

☆問 9 a) 南山さんは、小さいとき両親に死に別れ、となりの親切的な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。

そして南山さんはある会社の社長にまで出世しました。

ところが、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないかということがきまってしまう大事な会議がある日に、故郷の西木野さんがキトクになり

「ニシキノ キトク スグ カエレ」

という電報を南山さんはうけとりました。

このとき、南山さんが、つぎのどちらの態度をとれば、あなたのお気持ちにピッタリしますか？

〔ここでリストをみせる〕

1 たとえ、会社がつぶれても、故郷へ帰る	4 D. K.
2 たとえ、恩人の死に目に会えなくても、その会議に出席する	
3その他〔記入〕	

		1故郷へ 帰る	2会議に 出席する	3その他	4D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	30.8	60.1	2.9	6.2	100.0	(892)	57.2	0.19
	II	27.6	63.1	3.3	6.0	100.0			
適 良	I	29.6	61.9	3.4	5.3	100.0	(653)	58.3	0.19
	II	27.7	64.5	2.1	5.7	100.0			
否 不良	I	36.0	54.7	1.2	8.1	100.0	(86)	47.7	0.13
	II	24.4	53.5	12.8	9.3	100.0			

第13表 恩人がキツクるとき（南山さんのイメージ）

☆問 9 b) このとき、南山さんはいろいろ考えた末、その会議に出席したとします。その場合、あなたの感じでは南山さんはどういう人だと思いますか、思いついたままの感じをおっしゃってください？

〔感じを記入〕

☆問 9 c) 〔つぎのリスト〕では、この中からえらぶとしたら、南山さんはどれに当ると思いますか？

- 1 公私をわきまえる人
- 2 合理的な人
- 3 利害得失を考える人
- 4 私事を重んじる人
- 5 義理堅い人
- 6 人情にあつい人

7 D. K.

		1公私 をわき まえる 人	2合理 的な人	3利害 得失を 考える 人	4私事 を重ん じる人	5義理 堅い人	6人情 にあつ い人	7 D. K.	8 その他	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	44.2	8.1	10.0	6.7	14.0	7.5	7.0	2.5	100.0	(892)	37.0	0.15
	II	47.6	9.1	8.7	6.7	13.2	7.0	6.3	1.2	100.0			
適 良	I	44.0	7.7	10.4	6.9	15.0	6.9	6.0	3.2	100.0	(653)	38.1	0.17
	II	47.6	9.5	9.0	7.4	12.9	6.3	5.7	1.7	100.0			
否 不良	I	52.3	10.5	8.1	2.3	11.6	1.2	12.8	1.2	100.0	(86)	25.5	0.08
	II	51.2	7.0	3.5	4.7	11.6	11.6	10.5	0.0	100.0			

第14表 お祭の寄付

問 10 〔リスト〕ここに東さんという人がいます。

東さんは、お祭の寄付は、寄付したい人から出してもらうのがよいし、

「自分はお祭には寄付したくない」

とかねがね 考えていました。

今年もお祭の時期になって、いつものように

一軒一軒 寄付をとりまわってきました。

東さんは自分の考え通り寄付するのをことわるべきでしょうか

それとも、みんなにつき合って、寄付を出すべきでしょうか？

- 1 ふだんの意見通り、寄付するのを、ことわるべきだ
- 2 ふだんの意見は別として、つき合いだから、寄付すべきだ
- 3 その他〔記入〕

4 D. K.

			1寄付するの とわべきだ	2寄付す べきだ	3その他	4D. K.	計	全 体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		21.2	74.6	2.1	2.1	100.0	(1822)	70.6	0.27
		II	23.8	72.5	2.4	1.3	100.0			
適 良	I		21.7	74.3	2.2	1.9	100.0	(1339)	71.6	0.31
		II	24.8	71.8	2.4	1.0	100.0			
否 不良	I		24.6	71.0	1.1	3.3	100.0	(183)	58.5	0.07
		II	28.4	67.8	2.7	1.1	100.0			

第 15 表 立 派 な 人 物 (聖徳太子)

問 11 〔見開きのリスト〕ここに 14 人の日本人の名前がかいてあります。

まず、聖徳太子は立派な人だと思いますか、それともそうは思いませんか、あなたのお考えに一番近いものをこの(左の)表から 1 つえらんでください？

では、楠木正成はどうですか？

(以下 1 人 1 人物名をよみあげてよくたしかめながら質問していく)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 と思わ ない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	計	全 体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		47.8	20.1	1.3	0.1	11.2	2.8	9.5	7.1	100.0	(1822)	71.1	0.16
		II	53.6	22.3	1.2	0.3	14.3	2.2	3.6	2.6	100.0			
適 良	I		47.7	20.8	1.6	0.1	11.9	2.6	8.6	6.7	100.0	(1339)	73.2	0.21
		II	54.5	23.0	1.1	0.2	13.8	1.6	3.1	2.5	100.0			
否 不良	I		49.2	23.0	0.5	0.0	6.0	2.2	14.2	4.9	100.0	(183)	66.1	-0.02
		II	44.8	24.0	2.2	0.0	19.1	3.8	3.8	2.2	100.0			

第 16 表 立 派 な 人 物 (楠木正成)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 と思わ ない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	計	全 体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		29.5	30.2	6.0	0.5	12.7	4.3	9.5	7.1	100.0	(1822)	64.6	0.20
		II	33.6	35.1	5.2	0.8	15.9	3.3	3.6	2.6	100.0			
適 良	I		30.4	30.7	5.9	0.7	13.0	3.9	8.6	6.7	100.0	(1339)	66.5	0.24
		II	34.5	35.2	5.3	0.4	15.5	3.3	3.1	2.5	100.0			
否 不良	I		22.4	29.5	9.8	0.0	10.4	8.7	14.2	4.9	100.0	(183)	55.7	0.11
		II	25.7	36.6	5.5	2.2	20.2	3.8	3.8	2.2	100.0			

第17表 立派な人物 (足利尊氏)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 と思わ ない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		2.9	15.0	17.4	10.1	30.8	7.0	9.5	7.1	0.1	100.0	(1822)	44.1	0.15
	II		5.1	17.6	18.2	11.6	34.6	6.7	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 良	I		2.6	14.6	17.4	10.5	33.2	6.4	8.6	6.7	0.1	100.0	(1339)	46.2	0.18
	II		5.5	17.0	18.7	12.1	34.7	6.2	3.1	2.5	0.0	100.0			
否 不 良	I		4.4	23.0	20.2	4.9	18.0	10.3	14.2	4.9	0.0	100.0	(183)	31.7	-0.02
	II		3.8	16.9	19.7	12.0	33.3	8.2	3.8	2.2	0.0	100.0			

第18表 立派な人物 (豊臣秀吉)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 と思わ ない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		31.6	34.7	6.9	1.0	5.8	3.1	9.5	7.1	0.2	100.0	(1822)	68.6	0.20
	II		31.8	41.3	6.6	1.4	8.1	4.7	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 良	I		30.5	35.9	7.7	0.8	6.4	3.0	8.6	6.7	0.2	100.0	(1339)	68.9	0.21
	II		31.3	42.4	7.1	1.3	7.6	4.6	3.1	2.5	0.0	100.0			
否 不 良	I		38.3	30.1	5.5	1.6	2.2	3.3	14.2	4.9	0.0	100.0	(183)	66.7	0.13
	II		26.2	41.5	7.7	2.2	8.7	7.7	3.8	2.2	0.0	100.0			

第19表 立派な人物 (徳川家康)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 と思わ ない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		23.1	32.2	11.7	5.0	7.3	3.9	9.5	7.1	0.2	100.0	(1822)	58.3	0.21
	II		22.8	37.0	13.3	4.1	11.4	5.3	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 良	I		22.3	33.3	12.2	4.5	8.1	4.0	8.6	6.7	0.3	100.0	(1339)	58.5	0.22
	II		21.8	37.9	14.0	4.1	11.4	5.1	3.1	2.5	0.0	100.0			
否 不 良	I		29.5	32.8	7.7	6.0	2.2	2.7	14.2	4.9	0.0	100.0	(183)	55.7	0.12
	II		20.2	37.2	13.1	4.9	13.1	5.5	3.8	2.2	0.0	100.0			

第20表 立派な人物 (新井白石)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2ま だ立派 な人物 と思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを 知らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		22.0	17.2	2.7	0.3	34.9	6.1	9.5	7.1	0.2	100.0	(1822)	54.7	0.17
	II		25.2	22.0	3.1	0.7	35.8	7.1	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 良	I		22.7	17.6	2.3	0.4	36.4	5.1	8.6	6.7	0.1	100.0	(1339)	58.3	0.23
	II		27.2	21.8	3.1	0.5	35.2	6.5	3.1	2.5	0.0	100.0			
否 不 良	I		19.7	24.6	4.9	0.0	21.3	9.8	14.2	4.9	0.5	100.0	(183)	42.6	-0.05
	II		21.9	23.5	3.3	0.5	37.7	7.1	3.8	2.2	0.0	100.0			

第21表 立派な人物 (伊能忠敬)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2ま だ立派 な人物 と思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを 知らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		12.4	14.4	2.9	0.5	45.5	7.3	9.5	7.1	0.3	100.0	(1822)	54.0	0.13
	II		14.7	19.9	3.4	0.4	48.2	7.3	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 良	I		12.9	14.9	2.2	0.5	47.6	6.3	8.6	6.7	0.2	100.0	(1339)	56.7	0.18
	II		15.5	19.3	3.7	0.4	48.3	7.2	3.1	2.5	0.0	100.0			
否 不 良	I		9.8	15.8	8.2	1.1	32.8	12.6	14.2	4.9	0.5	100.0	(183)	40.4	-0.06
	II		12.6	21.3	3.3	0.0	48.1	8.8	3.8	2.2	0.0	100.0			

第22表 立派な人物 (二宮尊徳)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2ま だ立派 な人物 と思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを 知らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全 体	I		55.5	20.7	2.7	0.4	2.0	1.5	9.5	7.1	0.4	100.0	(1822)	78.2	0.18
	II		56.3	24.5	3.1	0.5	5.8	3.7	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 良	I		56.4	21.1	2.7	0.6	1.9	1.6	8.6	6.7	0.4	100.0	(1339)	79.2	0.21
	II		57.1	24.0	3.3	0.4	5.9	3.6	3.1	2.5	0.0	100.0			
否 不 良	I		51.9	21.9	3.3	0.0	1.6	1.6	14.2	4.9	0.5	100.0	(183)	75.4	0.08
	II		48.1	30.1	3.8	1.6	6.0	4.4	3.8	2.2	0.0	100.0			

第23表 立派な人物(西郷隆盛)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2ま ま立派 な人物 と思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全	体	I	34.7	34.0	6.2	0.5	4.6	2.9	9.5	7.1	0.5	100.0	(1822)	68.9	0.15
		II	36.0	38.4	5.6	0.7	8.1	4.9	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 否	良	I	35.0	34.3	6.6	0.7	4.7	3.1	8.6	6.7	0.4	100.0	(1339)	69.5	0.17
		II	36.0	39.1	6.6	0.3	7.6	4.8	3.1	2.5	0.0	100.0			
	不 良	I	32.2	36.1	5.5	0.0	2.2	3.2	14.2	4.9	1.6	100.0	(183)	66.7	0.06
		II	34.4	37.2	6.6	2.2	9.3	4.3	3.8	2.2	0.0	100.0			

第24表 立派な人物(福沢諭吉)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2ま ま立派 な人物 と思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 一 致 率	C(r)
全 体		I	42.0	17.7	1.4	0.1	18.1	3.4	9.5	7.1	0.5	100.0	(1822)	68.8	0.31
		II	42.9	21.7	1.4	0.1	21.9	5.9	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 否	良	I	43.8	17.3	1.6	0.1	18.6	2.8	8.6	6.7	0.4	100.0	(1339)	71.9	0.36
		II	44.4	21.8	1.3	0.1	21.1	5.5	3.1	2.5	0.0	100.0			
	不 良	I	38.8	25.1	0.0	0.0	10.4	4.9	14.2	4.9	1.6	100.0	(183)	61.2	0.05
		II	38.8	24.0	1.1	0.0	24.6	5.4	3.8	2.2	0.0	100.0			

第25表 立派な人物(伊藤博文)

			1非常 に立派 な人物 と思う	2ま ま立派 な人物 と思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単 純 一致率	C(r)
全 体		I	34.6	28.8	4.0	0.8	10.9	3.6	9.5	7.1	0.7	100.0	(1822)	65.8	0.19
		II	37.0	32.6	3.5	0.9	13.9	5.9	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 良		I	35.1	29.4	3.9	0.8	11.2	3.6	8.6	6.7	0.6	100.0	(1339)	67.8	0.22
		II	37.5	33.5	3.6	0.7	13.2	5.8	3.1	2.5	0.0	100.0			
否 不 良		I	35.0	29.0	5.5	0.5	6.6	2.7	14.2	4.9	1.6	100.0	(183)	61.2	0.07
		II	32.8	32.8	4.9	1.6	16.4	5.5	3.8	2.2	0.0	100.0			

第26表 立派な人物(乃木希典)

			1非常に 立派な 人物と 思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単一 純率	C(r)
全 体	I		38.6	24.1	5.2	0.8	10.7	3.2	9.5	7.1	0.7	100.0	(1822)	67.5	0.24
	II		41.2	29.0	4.6	1.2	12.8	5.1	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 否	良	I	38.8	24.6	5.2	0.9	11.4	3.2	8.6	6.7	0.6	100.0	(1339)	68.4	0.26
		II	40.9	29.4	4.7	0.8	13.3	5.3	3.1	2.5	0.0	100.0			
	不良	I	36.6	26.8	7.7	0.0	3.8	4.3	14.2	4.9	1.6	100.0	(183)	64.5	0.13
		II	36.6	31.7	6.6	2.2	12.0	4.9	3.8	2.2	0.0	100.0			

第27表 立派な人物(明治天皇)

			1非常に 立派な 人物と 思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単一 純率	C(r)
全 体	I		52.4	17.7	3.8	1.0	5.2	2.6	9.5	7.1	0.7	100.0	(1822)	73.4	0.26
	II		55.5	21.8	4.1	0.9	7.3	4.3	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 否	良	I	52.4	18.0	4.3	1.2	5.8	2.4	8.6	6.7	0.6	100.0	(1339)	74.4	0.24
		II	55.6	22.6	4.0	1.0	7.0	4.2	3.1	2.5	0.0	100.0			
	不良	I	51.9	19.7	3.3	0.0	1.1	2.7	14.2	4.9	2.2	100.0	(183)	69.4	-0.00
		II	48.6	26.8	5.5	1.1	8.7	3.2	3.8	2.2	0.0	100.0			

第28表 立派な人物(野口英世)

			1非常に 立派な 人物と 思う	2まあ 立派な 人物と 思う	3それ 程立派 な人物 とは思 わない	4立派 な人物 とは思 えない	5この 人物の ことを よく知 らない	6 D. K.	7全部 立派	8全部 D. K.	9途中 から全 部立派	計	全体	単一 純率	C(r)
全 体	I		54.8	17.5	1.0	0.2	7.1	2.1	9.5	7.1	0.7	100.0	(1822)	75.7	0.22
	II		57.5	20.1	1.3	0.3	10.2	4.5	3.6	2.6	0.0	100.0			
適 否	良	I	56.3	17.4	1.0	0.1	7.2	1.9	8.6	6.7	0.6	100.0	(1339)	77.7	0.26
		II	58.5	20.5	1.5	0.2	9.4	4.3	3.1	2.5	0.0	100.0			
	不良	I	53.0	18.0	2.2	0.0	4.4	1.6	14.2	4.9	1.6	100.0	(183)	71.6	0.06
		II	54.6	21.3	2.2	1.1	8.7	6.0	3.8	2.2	0.0	100.0			

第29表 政治問題に関心があるか

☆問 12 [リスト] あなたは、ひとくちについて、政治問題にふだん関心があるほうですか、つぎのうちのどれに当たりますか？

		1関心がある	2やや関心がある	3あまり関心がない	4関心がない	5その他	6D. K.	計	白	単一致率	C(r)
全 体	I	18.7	38.9	28.0	12.1	0.1	2.1	100.0	(892)	52.9	0.34
	II	17.0	38.8	29.4	13.3	0.1	1.3	100.0			
適 良	I	18.8	39.2	28.6	12.3	0.0	1.1	100.0	(653)	55.3	0.37
	II	15.3	38.6	30.9	13.9	0.2	1.1	100.0			
否 不 良	I	15.1	38.4	27.9	14.0	0.0	4.7	100.0	(86)	32.6	0.05
	II	27.9	44.2	19.8	8.1	0.0	0.0	100.0			

第30表 「憲法の問題」に関心があるか

A ☆問 13 [リスト] 上の段に7つの項目があります。

a) まずあなたは「憲法の問題」に関心をお持ちですか？

(下の段の 1. 2. 3. のどれに当たりますか)

	白		1あまり関心がない	2関心があるといえるだろう	3非常に関心がある	4その他	5D. K.	計	白	単一致率	C(r)
全 体	I		45.2	37.6	9.8	0.6	6.9	100.0	(892)	55.2	0.30
	II		45.7	35.5	14.2	0.4	4.0	100.0			
適 良	I		44.1	38.4	10.6	0.6	6.3	100.0	(653)	57.7	0.34
	II		46.2	36.6	13.6	0.5	3.1	100.0			
否 不 良	I		51.2	34.9	5.8	0.0	8.1	100.0	(86)	32.6	-0.04
	II		37.2	39.5	19.8	0.0	3.5	100.0			

B ☆問 13 [リスト] 上の段に7つの項目があります。

a) まずあなたは「憲法の問題」に関心をお持ちですか？

(下の段の 1. 2. 3. 4. のどれに当たりますか)

	赤		1関心がない	2あまり関心がない	3やや関心がある	4関心がある	5その他	6D. K.	計	赤	単一致率	C(r)
全 体	I		17.0	29.8	27.0	21.7	0.3	4.2	100.0	(930)	41.3	0.23
	II		14.8	30.9	28.3	21.5	0.1	4.4	100.0			
適 良	I		15.9	30.3	27.7	22.0	0.4	3.6	100.0	(686)	43.6	0.25
	II		14.1	29.7	31.3	20.6	0.0	4.2	100.0			
否 不 良	I		17.5	28.9	28.9	19.6	0.0	5.2	100.0	(97)	26.8	0.04
	II		18.6	33.0	20.6	23.7	1.0	3.1	100.0			

第 31 表 「選挙」に関心があるか

b) 「選挙」についてはどうですか？

白		1あまり 関心がない	2関心があるとい えるだろう	3非常に 関心がある	4その他	5D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	22.9	44.7	28.6	0.4	3.3	100.0	(892)	50.0	0.24
	II	25.0	45.4	27.0	0.8	1.8	100.0			
適 良	I	22.5	44.9	29.6	0.3	2.8	100.0	(653)	52.7	0.28
	II	24.5	47.6	25.7	0.6	1.5	100.0			
否 不 良	I	22.1	48.8	22.1	0.0	7.0	100.0	(86)	40.7	0.10
	II	20.9	46.5	29.1	1.2	2.3	100.0			

赤		1関心がない	2あまり 関心がない	3やや関 心がある	4関心がある	5その他	6D. K.	計	赤	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	8.0	18.1	30.4	41.5	0.1	1.9	100.0	(930)	46.9	0.24
	II	8.6	18.3	30.5	40.8	0.1	1.7	100.0			
適 良	I	8.0	17.3	31.2	41.7	0.1	1.6	100.0	(686)	48.8	0.26
	II	8.3	16.9	31.9	41.1	0.1	1.6	100.0			
否 不 良	I	6.2	14.4	32.0	43.3	0.0	4.1	100.0	(97)	34.0	0.06
	II	9.3	20.6	29.9	38.1	0.0	2.1	100.0			

第 32 表 「社会保障の問題」に関心があるか

c) 「社会保障問題」についてはどうですか？

白		1あまり 関心がない	2関心があるとい えるだろう	3非常に 関心がある	4その他	5D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	21.3	39.6	31.2	0.2	7.7	100.0	(892)	46.4	0.22
	II	20.4	42.2	31.2	0.3	5.9	100.0			
適 良	I	21.7	39.2	32.6	0.0	6.4	100.0	(653)	48.7	0.25
	II	20.1	43.6	30.8	0.2	5.4	100.0			
否 不 良	I	22.1	47.7	22.1	0.0	8.1	100.0	(86)	34.9	0.04
	II	18.6	40.7	36.0	1.2	3.5	100.0			

赤		1関心がない	2あまり 関心がない	3やや関 心がある	4関心がある	5その他	6D. K.	計	赤	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	6.8	13.4	28.7	45.8	0.5	4.7	100.0	(930)	45.2	0.20
	II	8.0	15.3	30.8	42.5	0.2	3.3	100.0			
適 良	I	7.0	13.6	29.4	45.2	0.7	4.1	100.0	(686)	46.9	0.22
	II	7.3	14.7	31.5	43.1	0.1	3.2	100.0			
否 不 良	I	5.2	14.4	27.8	46.4	0.0	6.2	100.0	(97)	25.7	-0.06
	II	6.2	23.7	32.0	35.1	1.0	2.1	100.0			

第33表 「教育の問題」に関心があるか

d) 「教育の問題」についてはどうですか？

白		1あまり 関心がない	2関心があるとい えるだろう	3非常に 関心がある	4その他	5D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	15.1	39.0	40.8	0.7	4.4	100.0	(892)	48.6	0.20
	II	13.8	41.9	41.5	0.6	2.2	100.0			
適 良	I	13.8	40.0	42.1	0.6	3.5	100.0	(653)	51.9	0.24
	II	13.5	41.3	42.7	0.6	1.8	100.0			
否 不 良	I	15.1	38.4	39.5	0.0	7.0	100.0	(86)	27.9	0.11
	II	14.0	50.0	32.6	1.2	2.3	100.0			

赤		1関心がない	2あまり 関心がない	3やや関 心がある	4関心がある	5その他	6D. K.	計	赤	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	6.5	10.1	26.9	53.1	0.4	3.0	100.0	(930)	49.6	0.20
	II	5.5	11.8	28.1	51.7	0.1	2.8	100.0			
適 良	I	6.9	9.6	26.2	54.7	0.6	2.0	100.0	(686)	51.3	0.22
	II	4.8	10.5	30.9	51.2	0.0	2.6	100.0			
否 不 良	I	4.1	13.4	26.8	50.5	0.0	5.2	100.0	(97)	38.1	0.05
	II	7.2	13.4	22.7	52.6	1.0	3.1	100.0			

第34表 「交通の問題」に関心があるか

e) 「交通の問題」(事故, マヒ)についてはどうですか？

白		1あまり 関心がない	2関心があるとい えるだろう	3非常に 関心がある	4その他	5D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	8.9	32.0	56.2	0.4	2.6	100.0	(892)	52.7	0.17
	II	8.7	33.9	55.3	0.1	2.0	100.0			
適 良	I	8.6	32.5	57.0	0.2	1.8	100.0	(653)	55.9	0.22
	II	8.4	33.8	55.7	0.2	1.9	100.0			
否 不 良	I	8.1	27.9	60.5	1.2	2.3	100.0	(86)	36.1	-0.10
	II	11.6	38.4	48.8	0.0	1.2	100.0			

赤		1関心がない	2あまり 関心がない	3やや関 心がある	4関心がある	5その他	6D. K.	計	赤	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	4.1	5.6	20.9	66.9	0.2	2.4	100.0	(930)	57.5	0.17
	II	5.4	6.0	21.5	64.9	0.0	2.1	100.0			
適 良	I	4.1	5.1	19.1	69.7	0.3	1.7	100.0	(686)	61.4	0.21
	II	4.5	5.5	21.7	66.2	0.0	2.0	100.0			
否 不 良	I	3.1	6.2	24.7	62.9	0.0	3.1	100.0	(97)	48.4	0.08
	II	7.2	6.2	23.7	59.8	0.0	3.1	100.0			

第 35 表 「物価の問題」に関心があるか

f) 「物価の問題」についてはどうですか？

白		1あまり 関心がない	2関心がある といえるだろう	3非常に 関心がある	4その他	5D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	6.8	26.3	64.1	0.4	2.2	100.0	(892)	55.9	0.18
	II	10.4	27.5	59.6	0.4	2.0	100.0			
適 良	I	6.7	25.6	66.5	0.2	1.1	100.0	(653)	57.3	0.19
	II	10.1	28.6	59.0	0.5	1.8	100.0			
否 不 良	I	10.5	22.1	60.5	1.2	5.8	100.0	(86)	47.7	0.08
	II	10.5	27.9	59.3	0.0	2.3	100.0			

赤		1関心がない	2あまり 関心がない	3やや関 心がある	4関心がある	5その他	6D. K.	計	赤	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	3.7	7.0	18.7	68.5	0.3	1.8	100.0	(930)	59.3	0.19
	II	4.8	6.5	20.3	66.2	0.1	2.0	100.0			
適 良	I	3.5	6.9	18.4	70.0	0.3	1.0	100.0	(686)	60.4	0.19
	II	4.5	6.4	21.4	66.0	0.0	1.6	100.0			
否 不 良	I	3.1	6.2	19.6	68.0	0.0	3.1	100.0	(97)	53.5	0.08
	II	5.2	5.2	19.6	66.0	1.0	3.1	100.0			

第 36 表 「日本の防衛問題」に関心があるか

g) 「日本の防衛問題」についてはどうですか？

白		1あまり 関心がない	2関心がある といえるだろう	3非常に 関心がある	4その他	5D. K.	計	白	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	34.5	33.6	21.0	0.3	10.5	100.0	(892)	44.2	0.21
	II	38.9	32.2	21.4	0.6	7.0	100.0			
適 良	I	33.5	35.1	21.3	0.2	10.0	100.0	(653)	44.6	0.21
	II	40.4	32.2	21.3	0.6	5.5	100.0			
否 不 良	I	43.0	29.1	16.3	0.0	11.7	100.0	(86)	38.4	0.13
	II	32.6	32.6	24.4	0.0	10.5	100.0			

赤		1関心がない	2あまり 関心がない	3やや関 心がある	4関心がある	5その他	6D. K.	計	赤	単 純 一致率	C(r)
全 体	I	15.2	23.8	25.7	27.5	0.2	7.6	100.0	(930)	40.5	0.23
	II	15.3	25.9	26.6	26.5	0.4	5.4	100.0			
適 良	I	15.7	22.3	26.8	28.3	0.3	6.6	100.0	(686)	41.8	0.24
	II	14.8	25.9	27.0	26.5	0.6	5.1	100.0			
否 不 良	I	14.4	26.8	25.8	21.6	0.0	11.3	100.0	(97)	27.8	0.06
	II	11.3	25.8	30.9	27.8	0.0	4.1	100.0			

第 37 表 小選挙区制に賛成か

問 14 あなたは、小選挙区制に賛成ですか、反対ですか？

- | | |
|-----------|---------|
| 1 賛成 | 4 D. K. |
| 2 反対 | |
| 3 その他〔記入〕 | |

Ⅱ 回答記入欄に 5「小選挙区制のことを知らない（わからない）」を追加

		1賛成	2反対	3その他	4D. K.	5小選挙区制のことを知らない	計	全体	単一致率	C(r)
全 体	I	21.9	25.6	9.9	42.5	—	100.0	(1822)	30.4	0.06
	Ⅱ	18.7	22.7	3.2	5.2	50.2	100.0			
適 良	I	23.3	25.8	10.7	40.2	—	100.0	(1339)	32.3	0.09
	Ⅱ	19.7	23.7	3.1	5.0	48.5	100.0			
否 不 良	I	12.6	33.9	4.9	48.6	—	100.0	(183)	19.0	—0.11
	Ⅱ	13.1	23.0	2.7	7.1	54.1	100.0			

第 38 表 死刑廃止に賛成か

(Ⅰの質問) 問 15 あなたは、死刑廃止に賛成ですか、反対ですか？

- | | |
|-----------|---------|
| 1 賛成 | 4 D. K. |
| 2 反対 | |
| 3 その他〔記入〕 | |

(Ⅱの質問) 問 15 あなたは、死刑をやめることに賛成ですか、反対ですか？

- | | | |
|---------------|--------------|------|
| 1 賛成 (死刑をやめる) | 2 反対 (死刑を残す) | 以下同じ |
|---------------|--------------|------|

		1賛成	2反対	3その他	4D. K.	計	全体	単一致率	C(r)
全 体	I	25.0	60.6	3.8	10.6	100.0	(1822)	58.2	0.18
	Ⅱ	21.5	70.5	2.7	5.3	100.0			
適 良	I	24.8	60.4	4.4	10.4	100.0	(1339)	59.3	0.20
	Ⅱ	21.4	70.4	2.8	5.5	100.0			
否 不 良	I	24.0	64.5	1.6	9.8	100.0	(183)	52.4	0.05
	Ⅱ	24.0	67.8	2.7	5.5	100.0			

第 39 表 義務教育の年数を長くすることに賛成か

問 16 あなたは、義務教育の年数を長くすることに、賛成ですか、反対ですか？

- | | |
|-----------|---------|
| 1 賛成 | 4 D. K. |
| 2 反対 | |
| 3 その他〔記入〕 | |

Ⅰ 3「その他」で「今のまま」「現状維持」と答えた人はそのまま3にし、それ以外を答えた人は5にした。

Ⅱ 回答記入欄の 2「反対」の後に「今のまま」「現状維持」を書き加えた。

		1賛成	2反対	3現状維持	4D. K.	5その他	計	全体	単一致率	C(r)
全 体	I	37.4	48.0	7.9	5.8	0.9	100.0	(1822)	63.0	0.30
	II	29.8	63.5	—	4.4	2.3	100.0			
適 良	I	37.4	48.4	8.7	4.7	0.7	100.0	(1339)	66.5	0.35
	II	30.1	64.3	—	3.9	1.7	100.0			
否 不 良	I	33.9	52.5	1.1	12.0	0.5	100.0	(183)	47.0	0.05
	II	27.9	63.4	—	3.8	4.9	100.0			

第 40 表 内閣を支持するか

問 17 あなたは、いまの内閣を支持しますか、支持しませんか？

- 1 支持する
2 支持しない
3 その他〔記入〕

4 D. K.

		1支持する	2支持しない	3その他	4D. K.	計	全体	単一致率	C(r)
全 体	I	41.9	32.7	7.1	18.3	100.0	(1822)	57.0	0.37
	II	43.2	30.4	8.7	17.7	100.0			
適 良	I	40.8	32.4	8.0	18.8	100.0	(1339)	59.4	0.41
	II	41.7	31.8	8.5	17.9	100.0			
否 不 良	I	43.7	42.6	2.7	10.9	100.0	(183)	36.6	0.03
	II	46.4	25.7	10.4	17.5	100.0			

第 41 表 現在の憲法をどう思うか

問 18 〔リスト〕あなたは現在の憲法について、どう思いますか。

(つぎのうち、いちばん近い意見をあげてください)？

- 1 将来は、もっと社会主義的な憲法にすべきである
2 ただちに、日本の本来の国情にあった憲法に改正すべきである
3 時期をみて、実情にあわない点だけ、小修正した方がよい
4 いまの憲法は絶対にかえるべきではない
5 その他〔記入〕

6 D. K.

		1社会主義的な憲法にすべきだ	2国情にあった憲法に改正すべきだ	3実情にあわない点だけ小修正する	4絶対にかえるべきでない	5その他	6D. K.	計	全体	単一致率	C(r)
全 体	I	10.6	16.6	45.2	10.2	1.1	16.4	100.0	(1822)	46.0	0.25
	II	12.4	16.1	46.5	10.3	1.6	13.1	100.0			
適 良	I	11.2	16.8	45.9	9.8	1.3	14.9	100.0	(1339)	48.0	0.27
	II	13.2	16.1	47.4	9.3	1.7	12.2	100.0			
否 不 良	I	7.1	10.9	47.5	14.2	0.0	20.2	100.0	(183)	35.0	0.09
	II	12.6	16.9	43.2	12.6	1.1	13.7	100.0			

第42表 天皇制のあり方

問 19 [リスト] 天皇のあり方として、どうするのがよいと思いますか、つぎのうちから、あなたのお考えにもっとも近いものを、1つあげてください？

- 1 天皇を現在より、もっと権威のあるものにする
- 2 天皇を現在と同じく象徴としておく
- 3 天皇を現在より、もっと形式的なものにする
- 4 天皇制は廃止する
- 5 その他〔記入〕

6 D. K.

			1もっと権威のあるものにする	2同じく象徴としておく	3もっと形式的なものにする	4天皇制は廃止する	5その他	6D. K.	計	全 体	単 純一致率	C(r)
全 体	I		10.4	74.5	5.5	3.8	0.3	5.6	100.0	(1822)	70.8	0.29
	II		11.8	76.3	4.9	3.3	0.5	3.1	100.0			
適 否	良	I	11.0	74.9	4.7	4.3	0.4	4.7	100.0	(1339)	73.9	0.34
		II	11.7	76.4	5.2	3.3	0.5	2.9	100.0			
	不良	I	7.1	77.0	8.7	1.1	0.0	6.0	100.0	(183)	63.9	0.09
		II	10.9	76.5	5.5	2.7	0.5	3.8	100.0			

第43表 低開発国への経済援助理由

問 20 [リスト] 日本がアジアやアフリカの低開発国を援助しているのは、なぜでしょうか

(1 番大きな理由をひとつあげてください)？

- 1 かわいそうなものを助けるため
- 2 開発のすすんでいる国としての当然の義務だ
- 3 戦争中の罪ほろぼしのため
- 4 将来、日本との貿易を盛んにするため
- 5 世界から社会不安をとりぞき、平和な世界にするため
- 6 その他〔記入〕

7 D. K.

~~~~~ 赤では「開発のおくれた国」とした

|     |    |    | 1かわいそうなものを助けるため | 2開発のすすんでいる国としての当然の義務だ | 3戦争中の罪ほろぼしのため | 4日本との貿易を盛んにするため | 5社会不安をとりぞき、平和な世界にするため | 6その他 | 7 D. K. | 計     | 全 体    | 単 純一致率 | C(r) |
|-----|----|----|-----------------|-----------------------|---------------|-----------------|-----------------------|------|---------|-------|--------|--------|------|
| 全 体 | I  |    | 2.9             | 17.2                  | 3.2           | 21.9            | 34.1                  | 2.1  | 18.6    | 100.0 | (1822) | 41.6   | 0.24 |
|     | II |    | 2.9             | 19.4                  | 4.1           | 23.4            | 36.2                  | 2.4  | 11.7    | 100.0 |        |        |      |
| 適 否 | 良  | I  | 2.6             | 17.3                  | 3.1           | 22.0            | 36.3                  | 2.5  | 16.1    | 100.0 | (1339) | 45.2   | 0.28 |
|     |    | II | 2.3             | 20.2                  | 3.8           | 23.9            | 36.6                  | 2.2  | 11.1    | 100.0 |        |        |      |
|     | 不良 | I  | 3.3             | 16.9                  | 1.1           | 23.0            | 27.9                  | 1.6  | 26.2    | 100.0 | ( 183) | 26.7   | 0.06 |
|     |    | II | 4.4             | 18.6                  | 6.0           | 18.6            | 32.2                  | 1.1  | 19.1    | 100.0 |        |        |      |

## 第 44 第 日本の実力を世界に示す方法

問 21 [リスト] 日本の実力を世界に示すためには、あなたとしては、つぎのうち、どれがいちばんよいと思いますか？

- 1 オリンピックでよい成績をあげる
- 2 万国博覧会を成功させる
- 3 南極観測でよい成果をあげる
- 4 人工衛星の打ち上げや宇宙開発を進める
- 5 安全な方法で核実験をおこなう
- 6 どれもあげない

それでは、このほかに何がありますか？ [要点記入]

7 その他 [記入]

8 D. K.

|       |    | 1オリ<br>ンピック<br>でよい成<br>績をあ<br>げる | 2万国<br>博覧会<br>を成功<br>させる | 3南極<br>観測で<br>よい成<br>果をあ<br>げる | 4人工<br>衛星、<br>宇宙開<br>発を進<br>める | 5安全<br>な方法<br>で核実<br>験をお<br>こなう | 6どれ<br>もあげ<br>ない | 7その<br>他 | 8 D. K. | 計     | 全体     | 単 純<br>一致率 | C(r) |
|-------|----|----------------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|------------------|----------|---------|-------|--------|------------|------|
| 全 体   | I  | 9.6                              | 29.4                     | 5.4                            | 16.5                           | 9.9                             | 3.1              | 5.3      | 20.7    | 100.0 | (1822) | 39.9       | 0.25 |
|       | II | 10.8                             | 38.0                     | 4.5                            | 13.9                           | 9.4                             | 2.5              | 3.6      | 17.3    | 100.0 |        |            |      |
| 適 良   | I  | 8.7                              | 29.4                     | 6.0                            | 16.7                           | 10.0                            | 3.6              | 6.3      | 19.3    | 100.0 | (1339) | 42.3       | 0.28 |
|       | II | 10.8                             | 38.3                     | 4.9                            | 14.4                           | 9.8                             | 2.7              | 3.4      | 15.9    | 100.0 |        |            |      |
| 否 不 良 | I  | 10.4                             | 29.0                     | 3.8                            | 15.8                           | 8.2                             | 2.7              | 3.3      | 26.8    | 100.0 | ( 183) | 25.6       | 0.08 |
|       | II | 9.8                              | 30.6                     | 4.4                            | 18.0                           | 7.7                             | 2.2              | 6.0      | 21.3    | 100.0 |        |            |      |

## 第 45 表 万国博覧会評価

☆問 22 [リスト] 万博覧会が昭和 45 年に大阪で開かれますが、あなたは、外国に恥ずかしくないような、立派な万国博覧会が出来ると思いますか？

- 1 非常に立派にできるだろう
- 2 相当、立派にできるだろう
- 3 あまり立派にはできないだろう
- 4 立派にはとてもできないだろう
- 5 その他 [記入]

6 D. K.

[立派とは、設備、準備、接待等をふくんだもの]

[なお、開催は昭和 45 年 3 月 15 日から 9 月 13 日まで大阪吹田市千里丘陵で]

|       |    | 1非常<br>に立派<br>にでき<br>るだろ<br>う | 2相当<br>立派に<br>できる<br>だろ<br>う | 3あまり<br>立派に<br>はでき<br>ないだ<br>ろ<br>う | 4立派<br>にはと<br>てもで<br>きない<br>だろ<br>う | 5その<br>他 | 6 D. K. | 計     | 白      | 単 純<br>一致率 | C(r) |
|-------|----|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|----------|---------|-------|--------|------------|------|
| 全 体   | I  | 21.7                          | 50.9                         | 7.6                                 | 2.0                                 | 1.2      | 16.4    | 100.0 | ( 892) | 53.1       | 0.27 |
|       | II | 21.0                          | 56.7                         | 7.5                                 | 1.0                                 | 2.4      | 11.4    | 100.0 |        |            |      |
| 適     | I  | 22.1                          | 50.5                         | 8.0                                 | 2.1                                 | 1.2      | 16.1    | 100.0 | ( 653) | 53.5       | 0.27 |
|       | II | 21.1                          | 57.6                         | 7.7                                 | 1.1                                 | 1.7      | 10.9    | 100.0 |        |            |      |
| 否 不 良 | I  | 11.6                          | 66.3                         | 3.5                                 | 1.2                                 | 1.2      | 16.3    | 100.0 | ( 86)  | 48.8       | 0.10 |
|       | II | 16.3                          | 58.1                         | 5.8                                 | 1.2                                 | 5.6      | 12.8    | 100.0 |        |            |      |

## 第 46 表 4 人 の 候 補 者

問 23 [リスト] 選挙のとき、つぎのような 4 人がいるとします。このなかからえらぶとしたら、あなたは、どの人にしますか？

|                               |         |
|-------------------------------|---------|
| 1 東さん「教育制度の充実につとめます」          | 6 D. K. |
| 2 西さん「社会福祉の拡充につとめます」          |         |
| 3 南さん「大幅な減税をするようにつとめます」       |         |
| 4 北さん「社会的・地域的な格差をなくすようにつとめます」 |         |
| 5 その他「記入」                     |         |

|       |    | 1教育制度の充実につとめる | 2社会福祉の拡充につとめる | 3大幅な減税をするようにつとめる | 4社会的・地域的な格差をなくす | 5その他 | 6D. K. | 計     | 全 体    | 単 純一致率 | C(r) |
|-------|----|---------------|---------------|------------------|-----------------|------|--------|-------|--------|--------|------|
| 全 体   | I  | 15.0          | 30.5          | 13.9             | 28.0            | 4.1  | 8.5    | 100.0 | (1822) | 43.7   | 0.27 |
|       | II | 15.2          | 31.1          | 14.5             | 29.9            | 2.8  | 6.5    | 100.0 |        |        |      |
| 適 良   | I  | 15.2          | 30.5          | 14.1             | 28.7            | 4.6  | 6.8    | 100.0 | (1339) | 46.9   | 0.31 |
|       | II | 15.5          | 32.6          | 14.7             | 29.3            | 2.8  | 5.1    | 100.0 |        |        |      |
| 否 不 良 | I  | 15.3          | 27.9          | 14.8             | 26.2            | 2.2  | 13.7   | 100.0 | ( 183) | 25.7   | 0.05 |
|       | II | 16.4          | 25.7          | 12.0             | 31.7            | 3.8  | 10.4   | 100.0 |        |        |      |

## 第 47 表 職 業

この質問文はいいかえたり、補足したり自由にしてよい

[職 業] あなたが現在なさっている職業について、おうかがいします。

| 質問要領 | ア) あなたが働いている、勤め先は、なんというところですか？                             | イ) 従業員は会社全体で何人ぐらいですか？                                              | ウ) あなたはそこでどんなお仕事をしていますか？ | エ) あなたはそこでなにか役名がありますか？       | オ) あなたは業主ですか、雇われているのですか？                                        |
|------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 注 意  | 商店、会社、工場、官庁などの名称ただし、勤め先の大きさ(従業員の数)本人の仕事の内容がわかればくわしく書く必要はない | 支店や営業所の人数だけでなく、会社全体、店全体を大きく官庁の人は不用<br>十人未満<br>十人以上<br>百人以上<br>千人以上 | 本人の仕事をきく。会社の産業ではない。      | 一般工員、組長、職課長、重役、班係、部長、店主、etc. | 他人を雇っている店<br>他人を雇っていない店<br>他人を雇っている店<br>他人を雇っていない店<br>家族(店主は家族) |

|       |    | 1専門的技術的職業 | 2管理職・大企業主 | 3大企業ホワイトカラー | 4中小企業ホワイトカラー | 5家族従業者 | 6小企業主 | 7農、林、漁 | 8大企業ブルーカラー | 9中小企業ブルーカラー | 0 単純労働 | X 無職主婦学生 | 計     | 全 体    | 単 純一致率 | C(r) |
|-------|----|-----------|-----------|-------------|--------------|--------|-------|--------|------------|-------------|--------|----------|-------|--------|--------|------|
| 全 体   | I  | 3.1       | 1.8       | 7.1         | 3.0          | 3.2    | 10.8  | 19.4   | 6.0        | 6.6         | 2.1    | 36.8     | 100.0 | (1822) | 82.1   | 0.79 |
|       | II | 3.1       | 1.6       | 7.0         | 3.3          | 3.2    | 11.1  | 21.0   | 6.8        | 6.3         | 1.9    | 34.8     | 100.0 |        |        |      |
| 適 良   | I  | 3.4       | 1.8       | 7.2         | 3.0          | 3.7    | 11.2  | 18.2   | 6.6        | 6.2         | 1.6    | 37.0     | 100.0 | (1339) | 84.8   | 0.81 |
|       | II | 3.5       | 1.6       | 7.1         | 2.9          | 3.5    | 11.4  | 20.0   | 6.7        | 5.7         | 1.3    | 36.3     | 100.0 |        |        |      |
| 否 不 良 | I  | 2.7       | 1.1       | 7.7         | 2.7          | 0.5    | 8.2   | 27.3   | 2.7        | 7.7         | 3.3    | 36.1     | 100.0 | ( 183) | 67.8   | 0.60 |
|       | II | 2.7       | 1.6       | 7.7         | 4.9          | 0.5    | 8.7   | 23.0   | 8.2        | 9.3         | 4.9    | 28.4     | 100.0 |        |        |      |

第48表 支持政党

〔支持政党〕 あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

|           |          |
|-----------|----------|
| 1 自由民主党   | 2 民主社会党  |
| 3 社会党     | 4 共産党    |
| 5 公明党     | 6 支持政党なし |
| 7 その他〔記入〕 | 8 D. K.  |

|       |    | 1自由民主党 | 2民主社会党 | 3社会党 | 4共産党 | 5公明党 | 6支持政党なし | 7その他 | 8 D. K. | 計     | 全体     | 単一致率 | C(r) |
|-------|----|--------|--------|------|------|------|---------|------|---------|-------|--------|------|------|
| 全 体   | I  | 43.4   | 5.8    | 25.6 | 1.0  | 3.1  | 15.1    | 1.6  | 4.3     | 100.0 | (1822) | 64.5 | 0.51 |
|       | II | 42.2   | 4.3    | 24.4 | 1.2  | 3.3  | 19.6    | 1.5  | 3.5     | 100.0 |        |      |      |
| 適 良   | I  | 42.9   | 6.1    | 26.2 | 1.2  | 3.3  | 14.9    | 1.6  | 3.7     | 100.0 | (1339) | 68.6 | 0.56 |
|       | II | 40.8   | 4.6    | 25.2 | 1.3  | 3.2  | 20.9    | 1.3  | 2.7     | 100.0 |        |      |      |
| 否 不 良 | I  | 44.8   | 6.0    | 26.2 | 0.5  | 1.1  | 12.6    | 1.6  | 7.1     | 100.0 | ( 183) | 38.3 | 0.14 |
|       | II | 43.7   | 4.9    | 24.6 | 1.1  | 4.4  | 11.5    | 2.7  | 7.1     | 100.0 |        |      |      |

第49表 学 歴

〔学 歴〕 あなたが、最後にいらっしゃった学校は、なんですか？

|                                             |
|---------------------------------------------|
| 1 小学校〔学歴なしを含む〕                              |
| 2 新制中学〔旧制高等小学〕                              |
| 3 新制高校〔工(商)業学校〕, 旧制中学校〔中学校, 商(工)業学校, 高等女学校〕 |
| 4 大学, 旧制高専〔旧制高等学校, 工(商)業専門, 高等工(商)業〕        |
| 5 その他〔小学校から通算 学年 (校名) 〕                     |

|       |    | 1小 学 | 2中 学 | 3高 校 | 4大 学 | 5その他 | 計     | 全 体    | 単一致率 | C(r) |
|-------|----|------|------|------|------|------|-------|--------|------|------|
| 全 体   | I  | 20.4 | 40.5 | 30.4 | 7.7  | 1.0  | 100.0 | (1822) | 71.6 | 0.60 |
|       | II | 23.7 | 37.9 | 29.3 | 7.9  | 1.2  | 100.0 |        |      |      |
| 適 良   | I  | 17.7 | 41.0 | 32.5 | 8.1  | 0.7  | 100.0 | (1339) | 75.1 | 0.64 |
|       | II | 20.2 | 39.2 | 31.1 | 8.1  | 1.5  | 100.0 |        |      |      |
| 否 不 良 | I  | 24.6 | 39.3 | 28.4 | 6.6  | 1.0  | 100.0 | ( 183) | 49.2 | 0.28 |
|       | II | 27.3 | 38.3 | 25.1 | 8.7  | 0.5  | 100.0 |        |      |      |

## 第 50 表 宗 教

〔宗 教〕 a) あなたは宗教を信じていますか？

b) それは何という宗教の何派ですか？

|                                                                                                |                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1 信じていない                                                                                       | 2 信じているが宗教団体にはぞくしていない |
| 3 信じている（宗派名をくわしく下に記入する）                                                                        |                       |
| <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 2px 10px;">宗派名</div> |                       |
| 0 D. K.                                                                                        |                       |

|      |    | 1<br>信じて<br>いない | 2<br>信じて<br>いるが<br>宗教団<br>体には<br>ぞくし<br>ていな<br>い | 3<br>天理教<br>金光教 | 4<br>創学<br>教会 | 5<br>立正<br>佼成会 | 6<br>日蓮<br>正宗<br>法華教 | 7<br>その他<br>の仏教 | 8<br>その他<br>の新興<br>宗教 | 9<br>キリス<br>ト教 | 0<br>D. K. | X<br>神道 | 計     | 全体     | 単純<br>一致<br>率 | C(r) |
|------|----|-----------------|--------------------------------------------------|-----------------|---------------|----------------|----------------------|-----------------|-----------------------|----------------|------------|---------|-------|--------|---------------|------|
| 全 体  | I  | 60.3            | 10.2                                             | 1.5             | 3.3           | 0.7            | 2.2                  | 18.3            | 0.9                   | 0.8            | 0.7        | 0.5     | 100.0 | (1822) | 69.9          | 0.49 |
|      | II | 59.7            | 9.7                                              | 1.5             | 3.3           | 1.0            | 2.6                  | 18.9            | 1.3                   | 0.7            | 0.8        | 0.4     | 100.0 |        |               |      |
| 適 良  | I  | 59.4            | 10.2                                             | 1.6             | 3.7           | 0.7            | 2.3                  | 19.0            | 0.9                   | 1.0            | 0.4        | 0.4     | 100.0 | (1339) | 72.7          | 0.54 |
|      | II | 60.4            | 9.2                                              | 1.6             | 3.4           | 1.0            | 2.5                  | 19.1            | 1.1                   | 0.8            | 0.5        | 0.4     | 100.0 |        |               |      |
| 否 不良 | I  | 67.2            | 13.1                                             | 0.5             | 0.0           | 0.0            | 1.1                  | 13.7            | 0.0                   | 0.5            | 1.6        | 1.1     | 100.0 | ( 183) | 55.2          | 0.19 |
|      | II | 60.1            | 9.8                                              | 0.5             | 3.3           | 0.5            | 3.3                  | 18.0            | 1.1                   | 0.5            | 1.6        | 1.1     | 100.0 |        |               |      |